

# u-DIEX データ振分け・変換機能 利用マニュアル

2.0版

株式会社トヨタシステムズ

2019/01/01

## 変更履歴

2005/04/01	1.0 版	新規作成
2005/05/13	1.1 版	3.1.1 区切り形式 レコード形式 1、2 のレイアウト修正(区切りレコード識別 1)
2005/05/17	1.2 版	3.1.1 区切り形式 宛先 1 に“*”を設定の記述追加 パディング付加の注意書き追加
2005/10/12	1.3 版	3.3.2 フォーマット変換 CSV ファイルを EXCEL で表示する際の注意書き追加
2005/11/30	1.4 版	3.1.1 区切り形式 レコード形式1のレコード長誤記修正
2009/10/01	1.5 版	2.2 提供範囲 サービス廃止に伴い、u-DIEX(CAD)の記述を削除
2018/04/01	1.6 版	TDC 通信 PKG の提供に伴い TNS 通信 PKG の表記を通信 PKG に変更 ※通信 PKG とは TNS 通信 PKG 又は TDC 通信 PKG のことを指す
2018/04/09	1.7 版	一部画像を修正
2019/01/01	2.0 版	会社名変更

# 目次

1. はじめに.....	2
2. データ振分け・変換機能の概要.....	3
2.1. 特長.....	3
2.2. 提供範囲.....	4
2.3. 提供時間.....	4
2.4. 注意事項.....	4
3. 機能仕様.....	5
3.1. 「振分け」機能.....	5
3.1.1. 区切り形式.....	6
3.1.2. フリー形式.....	10
3.1.3. TNS 形式.....	11
3.2. 集約機能.....	12
3.3. 変換機能.....	13
3.3.1. 文字コード変換.....	13
3.3.2. フォーマット変換.....	15
4. 利用準備.....	18
4.1. 利用開始までの流れ.....	18
4.2. 申請/登録情報.....	19
4.2.1. パターン1.....	19
4.2.2. パターン2.....	21
4.2.3. パターン3.....	23
4.2.4. パターン4.....	25
4.2.5. パターン5.....	28
4.3. 申請/登録手順.....	30
4.4. 申請/登録フロー.....	31
5. 補足.....	32
5.1. 文字コードについて.....	32
5.1.1. 文字の種類.....	32
5.1.2. 文字コードの種類.....	32
5.2. PDF 変換について.....	34
5.3. u-DIEX(情報公開)におけるフォルダ構造のパターン.....	36
5.3.1. データ種別毎にフォルダを用意する場合.....	36
5.3.2. 会社コード毎にフォルダを用意する場合.....	37
5.4. 用語説明.....	38

## 1. はじめに

このマニュアルは、データ振分け・変換機能でできることおよび利用方法について説明したものです。u-DIEX（汎用）サービス・u-DIEX（情報公開）サービスについて理解されていることを前提としています。なお、以下の説明で登場するオーナーとユーザは、以下の通りに定義しております。

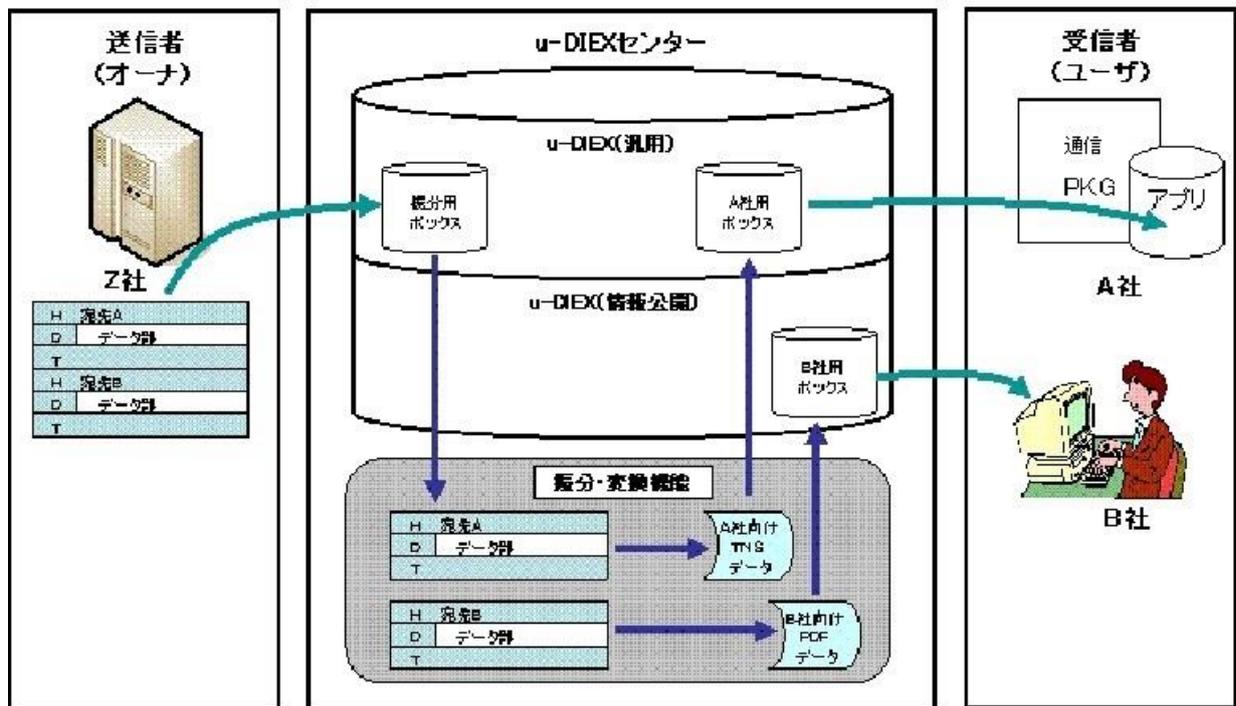
- ・ オーナー…データ振分け・変換機能の契約者であり、取引先との業務取り纏め元
- ・ ユーザ…オーナーと業務取引のある利用者

## 2. データ振分け・変換機能の概要

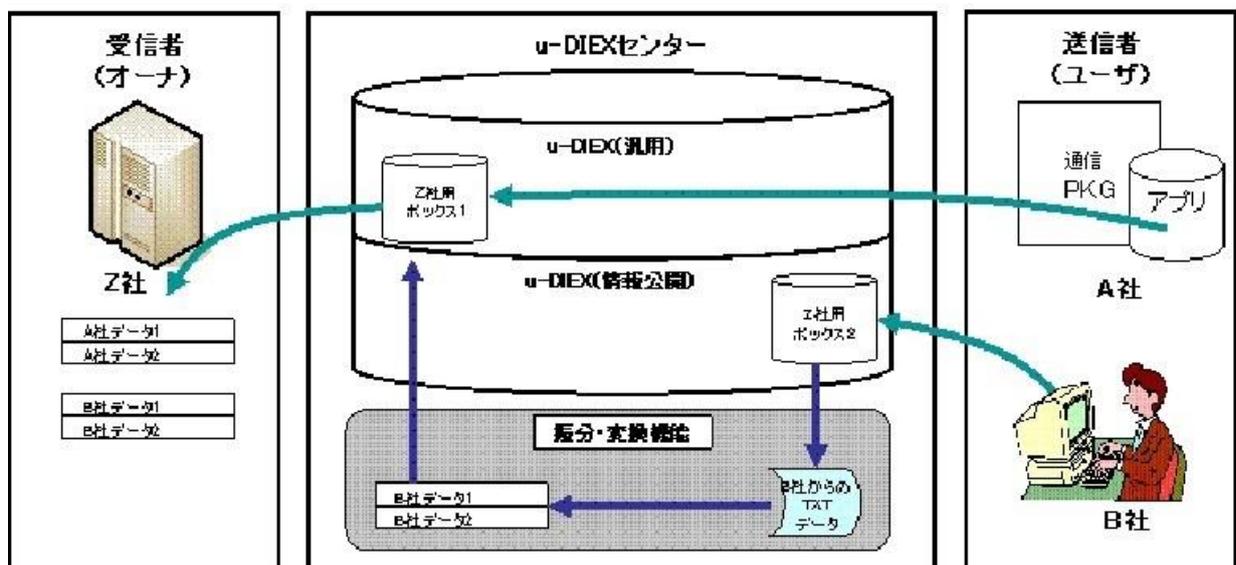
データ振分け・変換機能は、u-DIEX(汎用)サービス・u-DIEX(情報公開)サービスの付加価値機能です。当機能をご利用いただくと、汎用／情報公開のサービスを跨いでのデータ授受が可能になり、また u-DIEX 上で授受相手先の欲しい形式にデータを加工して提供できます。よってデータを加工するためのパッケージの開発・配布といった煩わしさが無くなり、様々な取引先の授受拡大にお役立ていただけます。

### 2.1. 特長

振分け用のボックスにデータを送信すると、予め登録いただいた情報に基づき、データを受信者毎に振分け、受信者の授受形態に合わせてデータを加工し、受信者のボックスへ格納を行います。つまり送信者が受信者の授受形態に合わせてデータを加工する、またそれぞれの受信者用ボックスに送り分ける必要がなくなります。



また u-DIEX(情報公開)に格納されているデータの、u-DIEX(汎用)蓄積ボックスへの集約も行います。受信者は、受信ボックスごとに受信要求を行う必要がなくなります。



## 2.2.提供範囲

データ振分け・変換機能は、u-DIEX(汎用)サービス・u-DIEX(情報公開)サービスのお客様に提供されます。

## 2.3.提供時間

毎週月曜0:00～6:00は、u-DIEXセンターの保守作業のため、サービス停止時間になります。該当時間帯でのサービス提供は行っておりませんので、ご了承ください。

## 2.4.注意事項

データ振分け・変換機能の注意事項を以下に示します。ご利用にあたり、予めご了承ください。

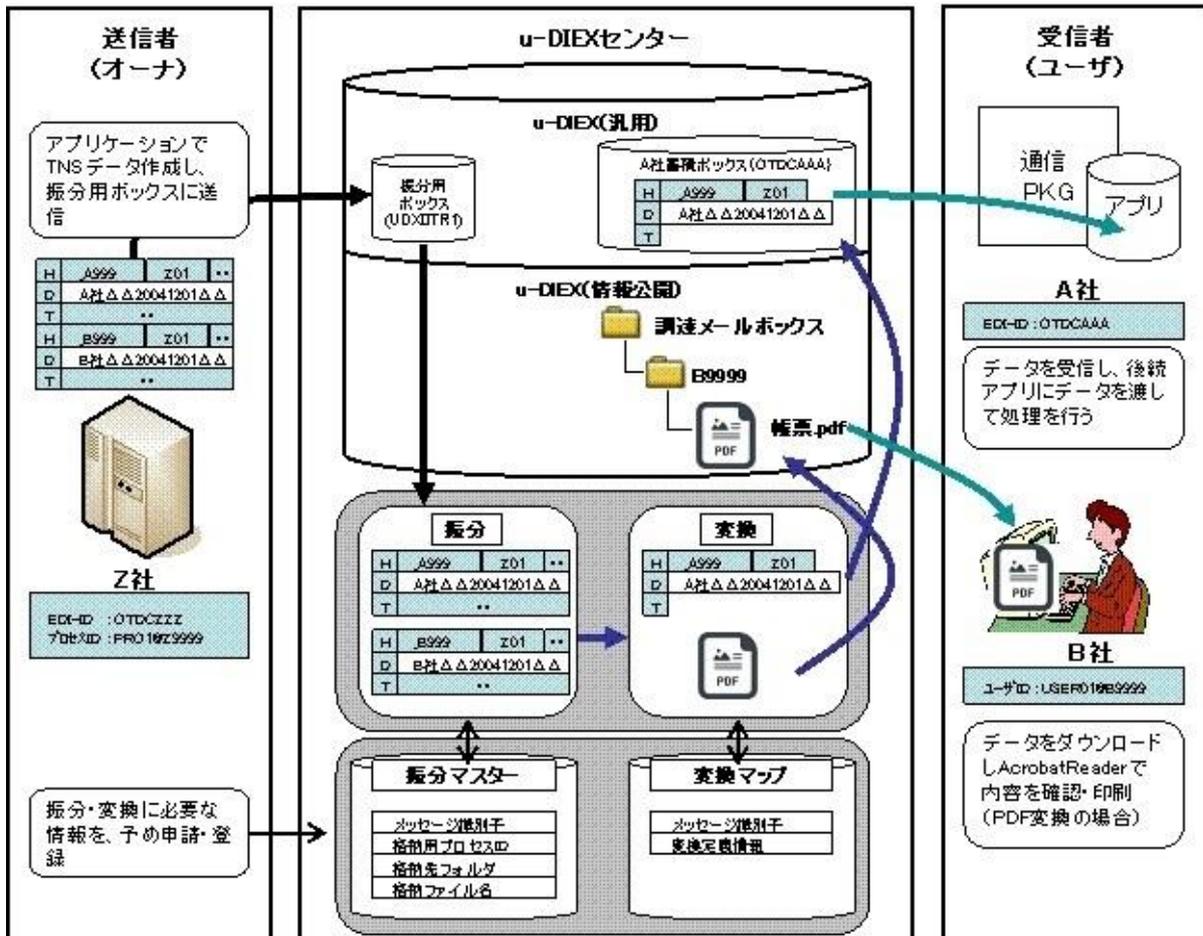
- ・ データ振分け・変換機能は、バッチ処理方式を採用しています。対象データの有無を定期的に監視し、存在した場合に抜き出して処理を行います。対象データが格納されてから、すぐに処理は開始されません。
- ・ 先に格納されたデータから順に処理が行われますが、データによっては処理内容が異なりますので、後に処理開始したデータが、先に処理開始したデータよりも早く完了する場合があります。
- ・ 1データの処理時間は、抜き出し開始から格納完了まで、遅くても2時間以内に処理完了することを目標にしております。ただし月末・月初など、一時に大量データが集中する場合は、処理目標時間について相談させていただく場合がございます。
- ・ 1データあたりの振分け件数の上限指標は400件です。400件以上の振分けを行う場合は、予めご連絡ください。
- ・ データ振分け・変換機能では、1レコードから複数レコードを組み立てる処理は行いません。
- ・ データ振分け・変換機能では、集計などの計算処理は行いません。
- ・ データ振分け・変換機能の処理対象は、ファイルのみです。パッケージの処理は行いません。
- ・ データ振分け・変換機能では、様々な情報をu-DIEXセンター上に登録して利用しますが、各種登録の反映は夜間バッチ処理で行われ、リアルタイムに反映されません。
- ・ ご利用開始前に、データの種類・サイズ・送信時間・送信回数・宛先数などの情報を、アンケートさせていただきますので、ご協力ください。

### 3. 機能仕様

この章では、データ振分け・変換機能を構成する3つの機能、「振分け」・「集約」・「変換」の詳細仕様について、説明します。

#### 3.1.「振分け」機能

「振分け」機能は、振分用ボックス(UDX0TR1)に蓄積されたひとまとまりの業務データを、宛先ごとに分割し、予め設定したボックスに格納します。格納先は、宛先が u-DIEX(汎用)サービスの場合は宛先 EDI-ID の蓄積ボックスへ、u-DIEX(情報公開)サービスの場合は任意のフォルダになります。



「振分け」機能で扱えるデータ形式には、「区切り形式」・「フリー形式」・「TNS形式」の3種類を用意しております。それぞれ特徴を持ち合わせていますので、お客様の業務データの形式に応じて、お選びください。

No.	データ形式	特徴
1	区切り形式	TS指定の区切りレコードを、お客様のファイル中に設定していただきます。0バイトファイルの送信が行いたい、可変長のデータで授受を行いたいお客様に適しています。
2	フリー形式	お客様のファイル中に宛先情報を含むレコードが存在する場合は、このレコードの情報をもとに振分けを行います。区切りレコードを設定する必要が無い手軽さがありますが、固定長のデータのみ取り扱いとなります。
3	TNS形式	TNSのヘッダレコードの情報をもとに、振分けを行います。TNS形式のデータを送信する必要があるお客様に適しています。

### 3.1.1.区切り形式

区切り形式では、TS 指定の区切りレコードを、お客様のファイル中に設定していただきます。区切りレコードには宛先の情報を設定できますので、この情報をもとにファイルを振分けます。区切りレコードは、振分け後削除されます。区切り形式の特徴は以下の通りです。

- ・ 区切りレコードのみの場合は、0 バイトのファイルが宛先のボックスに格納されますので、ユーザに明確にデータが無いことを通知するのに有効です。
- ・ 固定長のデータだけでなく、可変長のデータも取り扱えます。
- ・ 区切りレコード中に宛先の情報を詳細に設定できるので、データ作成の都度、宛先を変更でき、柔軟な宛先の管理が行えます。

区切りレコードは ASCII コード・EBCDIC コードの 2 種類用意しておりますので、お客様の環境等より選択して下さい。

また、次ページの区切りレコードのフォーマット表はu-DIEXセンター上のフォーマットです。データ作成時とセンターへの到着時で文字コードが異なる場合は、違いを意識したデータの作成が必要です。(例. ホスト上で EBCDICコードで作成し、HULFTで送信時にASCIIコードに変換して送信する場合、文字コード識別欄は“A”を設定しておく。)

区切りレコードのフォーマット表

位置(byte)	項目名	属性	レコード形式1(ASCIIコード)	レコード形式2(EBCDICコード)
1	区切りレコード 識別1	X(2)	(0x2020)(固定)	NULL(0x0000)(固定)
2				
3	文字コード識別	C(1)	'A'(0x41)(固定)	'E'(0xC5)(固定)
4	レコード長	C(4)	可変長レコードの場合： 半角スペース(0x20202020)(固定) ※各レコードは、0x0aで改行されて いる必要がある ※固定長レコードは未対応です	固定長レコードの場合： 0001～9999(0xF0～0xF9) 可変長レコードの場合： 半角スペース(0x40404040)(固定)
5				
6				
7				
8～11	区切りレコード 識別2	C(4)	'UDEX'(0x55444558)(固定)	'UDEX'(0xE4C4C5E7)(固定)
12～19	データ種別	C(8)	業務を識別するコード(お客様任意)	業務を識別するコード(お客様任意)
20～24	格納先	C(5)	取引先コード(お客様任意) u-DIEX(情報公開)サービスに振分け る場合は、ATSCの会社コードを設定	取引先コード(お客様任意) u-DIEX(情報公開)サービスに振分け る場合は、ATSCの会社コードを設定
25～27				
28～37	宛先01	C(10)	u-DIEX(情報公開)サービスに振分け る場合に、ATSCユーザIDを設定 省略時：半角スペース(0x20)埋め (会社宛の場合は、宛先01に "*"(1バイト分)を設定 ※次頁『補足説明1』参照	u-DIEX(情報公開)サービスに振分け る場合に、ATSCユーザIDを設定 省略時：半角スペース(0x40)埋め (会社宛の場合は、宛先01に "*"(1バイト分)を設定 ※次頁『補足説明1』参照
38～47	宛先02	C(10)		
48～57	宛先03	C(10)		
58～67	宛先04	C(10)		
68～77	宛先05	C(10)		
78～87	宛先06	C(10)		
88～97	宛先07	C(10)		
98～107	宛先08	C(10)		
108～117	宛先09	C(10)		
118～127	宛先10	C(10)		
128	区切りレコード 識別3	C(2)	半角スペース(0x20)	半角スペース(0x40)
129			半角スペース(0x20)	半角スペース(0x40)
(130～nnn)※1	パディング	C(nnn)	半角スペース(0x20)	半角スペース(0x40)
nnn+1 ※1	改行コード	C(1)	改行コード(0x0A)	

※1 nnn はデータレコード長を表します。データ長が区切りレコード(129 バイト)より長い場合は、レコードサイズまでパディングして下さい。(次頁『補足説明 2』参照)

### <補足説明 1>

ユーザが u-DIEX(情報公開)サービスの場合、宛先の設定は、会社宛てまでにするか、ユーザ宛てまでにするかを選択できます。会社宛ての場合は、宛先 01 に"\*"を設定し、宛先 02～宛先 10 にはスペースを設定して下さい。また格納先フォルダのアクセス権(宛先)を上位継承する場合は、格納先に"\*"宛先 01 に"\*"を設定し、宛先 02～宛先 10 にはスペースを設定して下さい

### <補足説明 2>

固定長(データレコードの各行(行頭～改行コード)のバイト数が全て統一された形式)の場合、データレコード長と区切りレコード長の大小により、入力時にパディングがなされている必要があります。また、レコード長は 9999 バイト以内でなければなりません。

区切りレコード	
X 社向けデータ	
X 社向けデータ	
区切りレコード	
Y 社向けデータ	
Y 社向けデータ	
区切りレコード	
Z 社向けデータ	
Z 社向けデータ	

a. データレコード長が区切りレコードより短い場合  
→区切りレコードサイズまでデータレコードをパディング  
(パディング文字は任意)

区切りレコード	
X 社向けデータ	
X 社向けデータ	
区切りレコード	
Y 社向けデータ	
Y 社向けデータ	
区切りレコード	
Z 社向けデータ	
Z 社向けデータ	

b. データレコード長が区切りレコードより長い場合  
→データレコードサイズまで区切りレコードをパディング  
(パディング文字は任意)

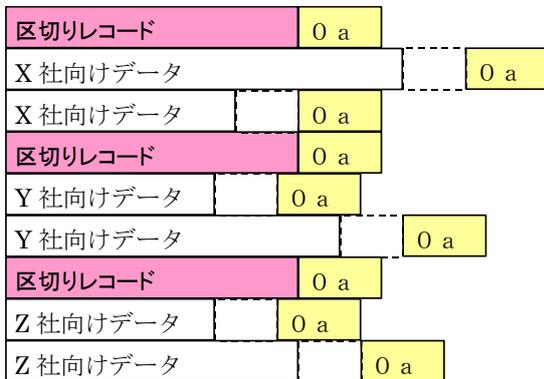
### <補足説明 3>

可変長(データレコードの各行(行頭～改行コード)のバイト数が統一されていない形式)の場合、各レコードのパディングは不要です。

区切りレコード	
X 社向けデータ	
X 社向けデータ	
区切りレコード	
Y 社向けデータ	
Y 社向けデータ	
区切りレコード	
Z 社向けデータ	

## &lt;補足説明 4&gt;

レコード形式 1 では、区切りレコード・データレコード全て末尾が改行コード”0x0a”である必要があります。



### 3.1.2.フリー形式

お客様データ中に宛先を識別するレコードが含まれている場合は、このレコードの情報をもとにファイルを振分けます。区切り形式での区切りレコードとは違い、振分け後も該当レコードは削除されません。区切りレコードを作成する必要が無い反面、以下の制約があります。

- ・ 固定長のデータ(レコード長は、9999 バイト以内)のみをサポートします。可変長のデータは取り扱えません。
- ・ 全てのレコード中の固定位置に、「そのレコードの中に宛先を判断するコードが存在する／しない」を判断するための情報(抜き出し条件)が必要です。また「そのレコードの中に宛先を判断するコードが存在する」と判断されるレコード中には、固定位置に宛先を判断できるコードが必要です。またそのレコードの文字コードは、ASCII コードもしくは EBCDIC コードのみをサポートします。

フリー形式では、「抜き出し条件」の情報を元に宛先情報が存在するレコードを特定し、「取引先コード」・「拠点コード」に指定されている宛先に振分けを行います。これらの位置情報を「レイアウト情報」に記入し、ご利用開始前に u-DIEX へ登録してください。

抜き出し条件	取引先コード (宛先)	拠点コード
A1	X 社	001
B1	X 社向けデータ	
B2		
B2		
A1	Y 社	002
	Y 社向けデータ	

No.	項目名	項目長	説明
1	抜き出し条件	1～50バイト	宛先情報が存在するレコードを識別する情報です。
2	取引先コード	1～5バイト	宛先の会社情報です。
3	拠点コード	1～3バイト	宛先の拠点情報です。省略可能です。

### 3.1.3.TNS 形式

TNS 形式では、TNS 標準形式／TNS 拡張形式(固定長)に対応します。TNS 標準形式／TNS 拡張形式(固定長)のマルチファイルを送信いただければ、ヘッダレコードの宛先情報をもとにファイルを振分けます。既に TNS 形式でのデータ授受を行う環境がある場合に有用です。ただし、TNS 拡張形式(可変長)のデータは取り扱えませんので、予めご了承ください。

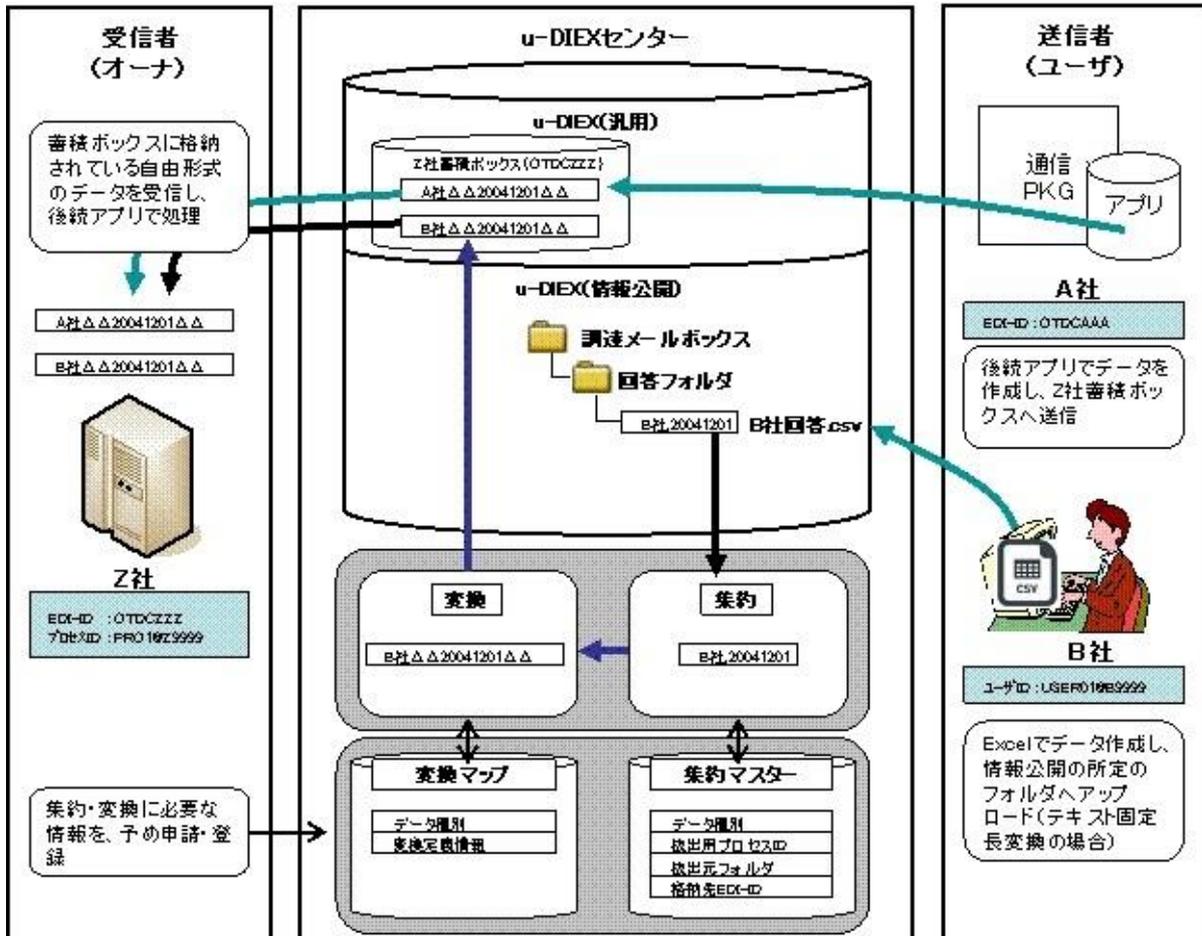
以下に、TNS 標準形式／TNS 拡張形式(固定長)のマルチファイルデータのイメージを示します。

抜き出し条件	取引先コード (宛先)	拠点コード (サブアドレス)
H	X 社	001
D	X 社向けデータ	
D		
T		
H	Y 社	002
D	Y 社向けデータ	
T		

### 3.2.集約機能

「集約」機能は、ユーザからの送信データを抜き出し、オーナーの蓄積用ボックスに格納します。ユーザからの送信データの形式に規定はありませんが、以下の制約がありますので、予めご了承ください。

- ・ 0 バイトのデータは、取り扱えません。
- ・ u-DIEX(情報公開)サービスのデータを集約する場合、データの種別を格納先のフォルダパスにより識別します。よって、ユーザが送信するデータの種別ごとに、フォルダを用意してください。
- ・ オーナーの蓄積用ボックスに格納する際の EDI-ID は、全て集約用 EDI-ID(UDX0TS1)になります。



### 3.3.変換機能

「変換」機能は、「振分け」・「集約」機能と組み合わせて使用する機能です。文字コード変換とフォーマット変換が行えます。利用いただくには、予め対象データのレイアウト情報やフォーマット情報を登録いただく必要があります。

#### 3.3.1.文字コード変換

文字コード変換では、以下の文字コードの双方向変換に対応しています。

No.	文字コード
1	JIS コード
2	シフト JIS コード
3	EUC コード
4	IBM 漢字+IBM_EBCDIC 混在 シフト IN/OUT 付き シフト IN:0x0F、シフト OUT:0x0E

例えば、IBM 漢字+IBM\_EBCDIC ⇄シフト JIS コードの変換を行うと、以下のようになります。

<文字コード:IBM 漢字+IBM\_EBCDIC>

コード値	: C1 C2 C3 0F 4F 58 48 F2 0E F0 F1 F2
表示文字	: A B C (SI) 漢 字 (SO) 0 1 2



双方向変換可能

<文字コード:シフト JIS コード>

コード値	: 41 42 43 8A BF 8E 9A 30 31 32 0D 0A
表示文字	: A B C 漢 字 0 1 2 (改行(CR+LF))

文字コード変換可能なコード範囲は、1990 年度版 JIS 規格の以下の通りです。

No.	コード範囲
1	JIS X0201(情報交換用符号)
2	JIS X0208(情報交換用漢字符号)
3	JIS X0212(情報交換用漢字符号 - 補助漢字)

文字コード変換を行ううえで以下の注意事項がありますので、予めご了承ください。

- ・ 文字コードの種類により SI/SO(シフト IN/シフト OUT)がデータ上に付加(または除去)されるため、変換後のデータ長の増減が発生することがあります。
- ・ 変換時に各レコードの終端に改行コード(CR、LF、CR+LF)を付加(または除去)する事が可能です。
- ・ 1レコード中に1バイトコードと2バイトコードの混在は可能です。また、異なる文字コード(JISコードと IBM\_EBCDIC 等)の混在も可能です。但しこの場合、データ項目単位で文字コードを分けていただき、提示して頂く必要があります。
- ・ 制御文字(NUL 等)は、変換を行いません。変換対象のデータに制御文字が含まれる場合は、制御文字の位置を、提示していただく必要があります。
- ・ 入力データ中に変換不可能な文字(コード範囲外の文字)が存在した場合は、1 バイト文字は”.”(ピリオド)に2 バイト文字は”.”(ドット)に置き換えられます。
- ・ 半角英小文字と半角カナ文字が混在するファイルは取り扱いできません。

下表(IBM\_EBCDIC IBM\_EBCDIK)は変換機能利用時に取り扱いできる文字コードです。

・IBM EBCDIC

上位		下位															
		-0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-A	-B	-C	-D	-E	-F
4-	SP	4B															
5-	&	4B															
6-	-	/	4B														
7-	4B																
8-	4B	a	b	c	d	e	f	g	h	i	4B						
9-	4B	j	k	l	m	n	o	p	q	r	4B						
A-	4B	s	t	u	v	w	x	y	z	4B							
B-	4B																
C-	{	A	B	C	D	E	F	G	H	I	4B						
D-	}	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	4B						
E-	¥	4B	S	T	U	V	W	X	Y	Z	4B						
F-	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	4B						

4B ……不正な文字コードとして置換される部分

・IBM EBCDIK

上位		下位															
		-0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-A	-B	-C	-D	-E	-F
4-	SP	「	」	、	・	ヲ	ア	イ	ウ	＆	.	<	(	+			
5-	&	エ	オ	ヤ	ユ	ヨ	ツ	4B	-	4B	!	¥	*	)	:	ー	
6-	-	/	4B	.	%	_	>	?									
7-	4B	:	#	@	'	=	"										
8-	4B	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	4B	サ	シ	ス	セ	
9-	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ	ノ	4B	4B	ハ	ヒ	フ		
A-	4B	?	へ	ホ	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ	4B	ヨ	ラ	リ	ル	
B-	4B	レ	ロ	ワ	ン												
C-	4B	A	B	C	D	E	F	G	H	I	4B						
D-	4B	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	4B						
E-	\$	4B	S	T	U	V	W	X	Y	Z	4B						
F-	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	4B						

4B ……不正な文字コードとして置換される部分

【TNS 形式の文字コード変換利用する場合の制約事項】

- ・u-DIEX の振分け用 BOX を宛先指定する為に送信時は送信情報レコードを付与してください。  
 /受信時は受信情報レコードが付与されます。
- ・TNS 形式の授受単位はファイルコード単位となります。  
 ※ファイルコードを跨いでのマルチファイルは取り扱えません。
- ・漢字フィールドが特定できない場合は変換することができません。(下図参照)

変換可能パターン

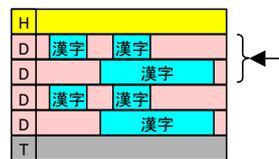
多様式1  
 :Dレコード上の漢字フィールドの位置・長さが異なるが、レコードID単位では同一位置にある。



2レコードで  
 1アプリケーションレコード  
 [ ] :漢字フィールド  
 ※レコードIDの位置を特定する為、レコードIDの位置は漢字フィールドの後ろには設定できません。

変換不可能パターン

多様式2  
 : Dレコード上の漢字フィールドの位置・長さが異なり、かつレコードIDなどのレコードを判断するフィールドが存在しない。



2レコードで  
 1アプリケーションレコード  
 [ ] :漢字フィールド

### 3.3.2.フォーマット変換

フォーマット変換では、以下の変換パターンに対応しています。各パターンを組み合わせ使用することも可能です。

No.	変換パターン
1	固定長テキストファイル ⇔ CSV ファイル
2	固定長テキストファイル ⇒ PDF ファイル
3	CSV ファイル ⇒ PDF ファイル

固定長テキストファイルには、TNS 形式のファイルも含まれます。但し、CSV ファイルから TNS 形式への変換はできませんので、予めご了承ください。

#### (1) 固定長テキストファイル ⇔ CSV ファイル

固定長テキスト形式と CSV 形式の双方向変換を行います。なお CSV 形式とは、","(カンマ)区切りのデータの事を指します。

<固定長テキスト形式>

△…ブランク(スペース)

株式会社 AA 社△△△200411012004123100100000X, YA"B001-D-001△△△△△△△△

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

<CSV 形式>

⇕ 双方向変換可能

株式会社 AA 社, 20041101, 20041231, 100000, "X, Y", "A""B", 001-D-001

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

上図の変換では、以下の変換も行っています。

- ・ 文字列データの後スペースの削除・付加。(①)
- ・ 数値データの前 0(ゼロ)の削除・付加。(④)
- ・ コンマ(,)が含まれている項目の前後にダブルクォーテーション(")の付加・削除。(⑤)
- ・ ダブルクォーテーション(")が含まれている項目のダブルクォーテーション(")のネスト、および前後にダブルクォーテーション(")の付加・削除。(⑥)
- ・ パディング項目の削除・付加(⑦)

#### ※CSV ファイルを EXCEL で表示する場合の注意点

CSV ファイルを EXCEL で表示させる場合、先頭「0」で始まる項目に関しては、「0」が省略されてしまいますので、予めご了承ください。(EXCEL の仕様上、数値項目として認識されてしまいます。)

ただし、CSV データ内の値は先頭「0」は付加された状態(そのままの状態)で変換されます。

<固定長テキストデータ内(イメージ)>

△…ブランク(スペース)

株式会社 AA 社△△△200411012004123100100000XYZB

① ② ③ ④ ⑤

<CSV データ内(イメージ)>

⇓ 変換後

株式会社 AA 社, 20041101, 20041231, 00100000, XYAB

① ② ③ ④ ⑤

<EXCEL 表示(イメージ)>

⇓ 表示後

A	B	C	D	E	F
株式会社AA社	20041101	20041231	100000	XYAB	
①	②	③	④	⑤	

## (2) 固定長テキストファイル ⇒ PDF ファイル

固定長テキスト形式のデータから、PDF ファイルを生成します。以下の例は、お客様データレコードの数レコードにつき1枚の表形式の帳票を作成するパターンで、PDF ファイル1ページ当たり4レコードを表示しています。

<固定長テキスト形式>

```

総務課△177027 前田△靖夫△19540227
総務課△194028 加藤△信一△19730527
営業一課 163004 佐々木△正雄 19630210
営業一課 171001 加藤△春子△19710508
営業一課 183017 田中△美貴△19891111
  
```

①      ②      ③      ④



<PDF ファイル>

課別人員名簿			
所属	従業員番号	氏名	生年月日
総務課	177027	前田 靖夫	1954/02/27
総務課	194028	加藤 信一	1973/05/27
営業一課	163004	佐々木 正雄	1963/02/10
営業一課	171001	加藤 春子	1971/05/08
①	②	③	④
1/2    ⑤			

課別人員名簿			
所属	従業員番号	氏名	生年月日
営業一課	183017	田中 美貴	1989/11/11
①	②	③	④
2/2    ⑤			

上図の変換では、以下の変換も行っています。

- ・ 表形式でのデータの貼り付け。(①～④)
- ・ ページ番号の表示。(⑤)

## (3) CSV ファイル ⇒ PDF ファイル

固定長テキスト形式のデータから、PDF ファイルを生成します。以下の例は、お客様のデータレコード 1 レコードにつき 1 枚の帳票を作成するパターンです。データレコードが 10 レコードの場合は出来上がる PDF ファイルは 10 ページとなります。

<CSV 形式>

株式会社 AA 社, 20041101, 20041231, 100000, 123456789, 123456789

①                      ②                      ③                      ④                      ⑤                      ⑥



<PDF ファイル>

株式会社 AA 社 御中	作成 2004/11/01
①	②
<b>請求書</b>	
⑧	④
請求金額	100,000 円
支払い期限	平成 16 年 12 月 31 日
⑤	③
	
* 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2 *	
⑥	⑦
	

上図の変換では、以下の変換も行っています。

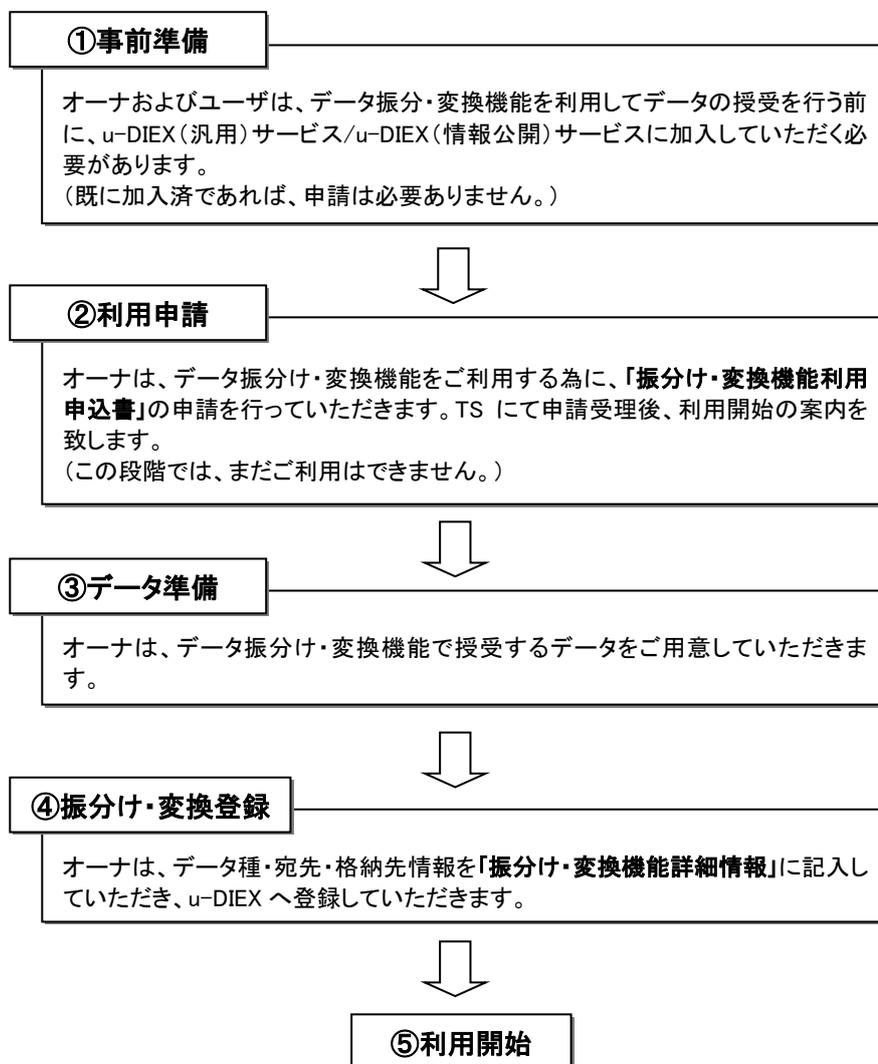
- ・ 文字列データの後ろに”御中”等の固定文字の付加。(①)
- ・ 日付データの”/”(スラッシュ)の付加。(②)
- ・ 日付データの和暦表示。(③)
- ・ 数値データの”,”(カンマ)の付加。(④)
- ・ バーコード、QR コードの表示(⑤、⑥)
- ・ ロゴ等の画像データ(JPEG,GIF)の表示。(⑦)
- ・ 罫線、図形(四角形、角丸四角形、楕円)の表示および網掛け設定。(⑧)

## 4. 利用準備

この章では、データ振分け・変換機能を利用開始するまでに実施いただく内容について、説明します。

### 4.1. 利用開始までの流れ

データ振分け・変換機能を利用開始するまでの、流れについて説明します。



【データ振分け・変換機能ご利用にあたって、下記に該当する場合は別途申請/登録が必要になります。】

○フリー形式で振分け機能を利用する場合

フリー形式では、「抜き出し条件」・「取引先コード」・「拠点コード」の 3 つの情報を元に宛先情報が存在するレコードを特定し、振分けを行います。これらの位置情報を「レイアウト情報」に記入し、ご利用開始前に u-DIEX へ登録してください。

○変換機能を利用する場合

文字コード変換、フォーマット変換を行う場合は、入力データのレイアウト情報、変換後の出力イメージ、サンプルの入力データを、提示していただきます。提示いただいた情報をもとに、TS にて変換マップを作成し、出力サンプルを作成します。お客様にて出力サンプルを確認いただいた後、TS にて変換マップの登録を行います。

## 4.2.申請/登録情報

データ振分け・変換機能は、お客様の利用するパターンによって、申請登録する情報が異なります。この章では、以下5つのパターンでの、お客様で準備、申請していただく必要な情報について説明します。

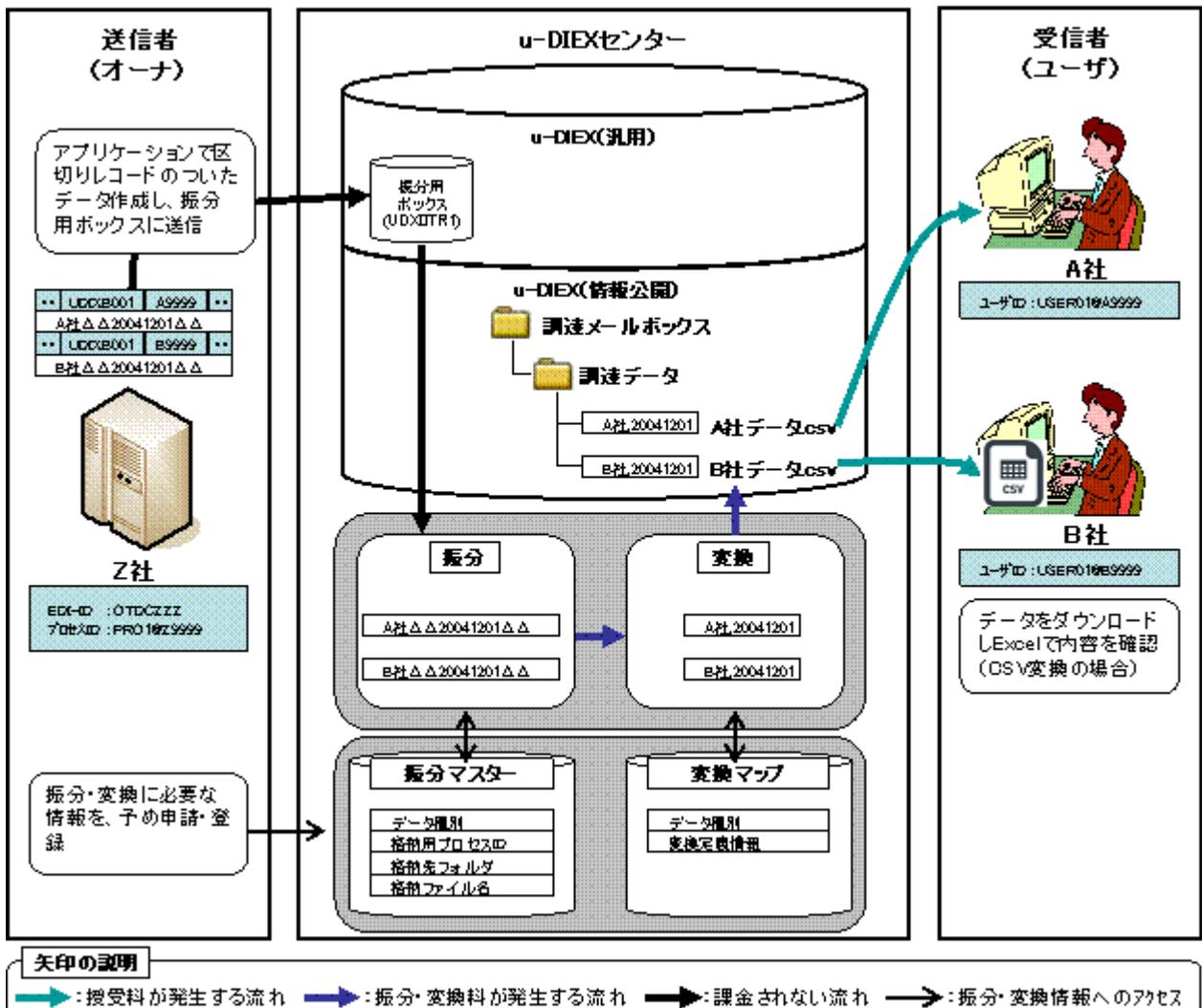
パターン1	「u-DIEX(汎用)サービス」から「u-DIEX(情報公開)サービス」へ振分けの場合
パターン2	「u-DIEX(汎用)サービス」から「u-DIEX(情報公開)サービス」と「u-DIEX(汎用)サービス」へ振分けの場合
パターン3	「u-DIEX(情報公開)サービス」内で振分けの場合
パターン4	「u-DIEX(情報公開)サービス」から「u-DIEX(汎用)サービス」と「u-DIEX(情報公開)サービス」へ振分けの場合
パターン5	「u-DIEX(情報公開)サービス」から「u-DIEX(汎用)サービス」へ集約する場合

### 4.2.1.パターン1

～ 「u-DIEX(汎用)サービス」から「u-DIEX(情報公開)サービス」へ振分けの場合 ～

既にu-DIEX(汎用)に加入済みのオーナーが、u-DIEX(情報公開)に加入済みのユーザと取引を行う際に、ご利用いただけるパターンです。オーナー・ユーザともに既存のインターフェースを活用できるメリットがあります。

オーナーは業務毎に区切りレコードの含まれるデータを作成し、u-DIEX(汎用)の自由形式データとして、振分け用ボックス(UDX0TR1)に送信してください。振分け用ボックスに格納されたデータは、振分け・変換機能により取引先の会社ごとに分割・変換され、u-DIEX(情報公開)のフォルダに格納されます。ユーザはブラウザからデータをダウンロードし、Excel・AcrobatReader等で内容を確認します。



## ①事前準備

- 1.オーナーは、u-DIEX(汎用)とu-DIEX(情報公開)を利用してデータ授受を行う為に、各サービスへ加入していただく必要があります。(既に加入済であれば必要ありません)
- 2.オーナーは、振分け・変換後のデータを格納するサービスを、用意していただく必要があります。
- 3.ユーザは、オーナーの提供するサービスに加入していただく必要があります。

## ②利用申請

### 「u-DIEX(汎用)振分け・変換機能利用申込書」の申請

連絡先、u-DIEX 送信用 EDI-ID、格納先サービス名ならびに格納用プロセス ID を申請書に記入いただき、申請していただきます。申請いただいた情報をもとに、TS にて登録が実施され、利用開始準備完了の連絡が行われます。

	項目	説明	例
1.	連絡先	オーナーの連絡先です。TS から連絡させていただく際の、連絡窓口をご記入ください。	会社名、担当者名、住所 TEL、E-MAIL アドレス等
2.	送信用 EDI-ID	汎用の振分け BOX へファイルを送信する際の EDI-ID として使用します。 振分け用ボックスには、EDI-ID:UDX0TR1 が設定されています。この UDX0TR1 と授受できるよう、パートナー登録を TS にて行います。	OTDCZZZ
3.	格納先サービス名	振分け・変換後のデータの、格納先サービスとして使用します。	調達メールボックス
4.	格納用プロセス ID	振分け・変換後のデータを格納する際、データの作成者として使用します。	PRO1@Z9999

## ③データの準備

お客様にて、データ内に宛先を識別するレコード(区切りレコード)を作成していただきます。

## ④振分け・変換登録申請

### 「振分け・変換詳細情報」の登録

データ種別、振分け先の ATSC 会社コード、格納先フォルダならびに格納ファイル名を、お客様にて記入していただきます。記入いただいた情報をセンタに登録します。この情報をもとに区切りレコードの宛先毎に、データを振分けて、相手先様へ格納いたします。

	項目	説明	例
1.	データ種別	振分け・変換の各種設定は、データの種類毎に行います。データ種別は、そのデータの種別を識別するための情報です。	UDIXB001
2.	ATSC 会社コード	振分け・変換後のデータを格納する際に設定するアクセス権情報です。区切りレコードを使用する場合は、u-DIEX 上への登録は不要です。	A9999 B9999
3.	格納先フォルダ	振分け・変換後のデータの、格納先フォルダです。	/調達メールボックス/ 調達データ
4.	格納ファイル名	振分け・変換後のデータを格納する際に設定するファイル名です。	A 社データ.csv B 社データ.csv

その他の項目に関しては、別紙「u-DIEX データ振分け・変換機能詳細・レイアウト情報サンプルと記入項目」をご参照ください。

**変換機能を利用される場合**

「4.1 利用開始までの流れ」をご参照ください。

**⑤利用開始**

u-DIEX(汎用)自由形式としてデータを作成いただき、振分け用ボックス(UDX0TR1)に送信してください。

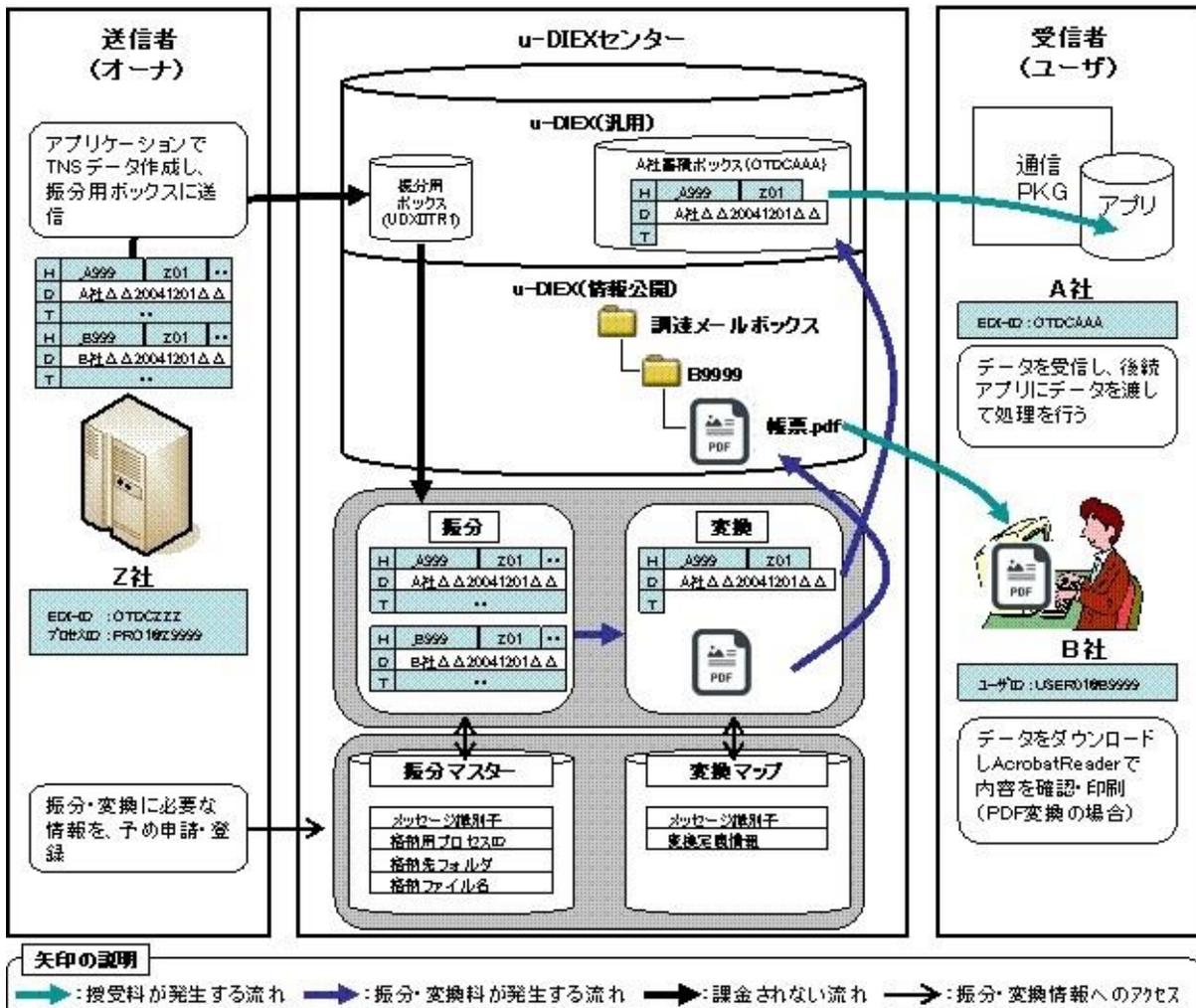
**4.2.2.パターン 2**

～ 「u-DIEX(汎用)サービス」から

「u-DIEX(情報公開)サービス」と「u-DIEX(汎用)サービス」へ振分けする場合 ～

既に u-DIEX(汎用)に加入済みのオーナーが、u-DIEX(汎用)に加入済みのユーザと u-DIEX(情報公開)に加入済みのユーザ、同一データで一度に取引を行う際に、ご活用いただけるパターンです。TNS の業務スタイルは変わらずに、u-DIEX(情報公開)のユーザとも取引が行えるメリットがあります。

オーナーは業務毎に TNS データを作成し、u-DIEX(汎用)の自由形式データとして、振分け用ボックス(UDX0TR1)に送信してください。振分け用ボックスに格納されたデータは、振分け・変換機能により取引先の会社ごとに分割・変換され、u-DIEX(汎用)の蓄積ボックスと u-DIEX(情報公開)のフォルダに格納されます。ユーザは通信 PKG を使いデータを受信するか、ブラウザからデータをダウンロードし、Excel・AcrobatReader 等で内容を確認します。



## ①事前準備

1. オーナは、u-DIEX(汎用)とu-DIEX(情報公開)を利用してデータ授受を行う為に、各サービスへ加入していただく必要があります。(既に参加済であれば必要ありません)
2. オーナは、振分け・変換後のデータを格納するサービスを、用意していただく必要があります。
3. ユーザは、u-DIEX(汎用)に参加するか、オーナの提供するサービスに参加していただく必要があります。

## ②利用申請

### 「u-DIEX(汎用)振分け・変換機能利用申込書」の申請

連絡先、u-DIEX 送信用 EDI-ID、格納先サービス名ならびに格納用プロセス ID を申請書に記入いただき、申請していただきます。申請いただいた情報をもとに、TS にて登録が実施され、利用開始準備完了の連絡が行われます。

	項目	説明	例
1.	連絡先	オーナの連絡先です。TS から連絡させていただく際の、連絡窓口をご記入ください。	会社名、担当者名、住所 TEL、E-MAIL アドレス等
2.	送信用 EDI-ID	汎用の振分け BOX へファイルを送信する際の EDI-ID として使用します。 振分け用ボックスには、EDI-ID:UDX0TR1 が設定されています。この UDX0TR1 と授受できるよう、パートナー登録を TS にて行います。	OTDCZZZ
3.	格納先サービス名	振分け・変換後のデータの、格納先(情報公開サービス)として使用します。	調達メールボックス
4.	格納用プロセス ID	振分け・変換後のデータを格納する際、データの作成者として使用します。	PRO1@Z9999

## ③データの準備

お客様にて、TNS 形式または TNS 拡張形式(固定長)のデータを作成していただきます。

## ④振分け・変換登録申請

### 「振分け・変換詳細情報」の登録

メッセージ識別子をデータ種別として登録いただきます。次に、振分け先が u-DIEX(汎用)加入者の場合は取引先コードと EDI-ID を、振分け先が u-DIEX(情報公開)加入者の場合は取引先コードに紐づく ATSC 会社コード、格納先フォルダならびに格納ファイル名を、お客様にて記入していただきます。記入いただいた情報をセンタに登録します。この情報をもとに TNS ヘッダレコードの宛先毎に、データを振分けて、相手先様へ格納いたします。

	項目	説明	例
1.	データ種別	振分け・変換の各種設定は、データの種類ごとに行います。データ種別には、TNS のメッセージ識別子を登録いただきます。	ITNSZ01
振分け先が u-DIEX(汎用)加入者の場合			
2.	取引先コード	TNS の取引先コードを登録いただきます。EDI-ID との紐づけに使用します。	_A999 ※”_”はブランクの意
3.	拠点コード	TNS 拡張形式の場合、拠点コードを登録いただきます。EDI-ID との紐づけに使用します。	000
4.	EDI-ID	振分け・変換後のデータの、格納先蓄積ボックスです。	OTDCAAA
振分け先が u-DIEX(情報公開)加入者の場合			
2.	取引先コード	TNS の取引先コードを登録いただきます。ATSC 会社コードとの紐づけに使用します。	_B999 ※”_”はブランクの意

3.	拠点コード	TNS 拡張形式の場合、拠点コードを登録いただきます。ATSC 会社コードとの紐づけに使用します。	000
4.	ATSC 会社コード	振分け・変換後のデータを格納する際に設定するアクセス権情報です。区切りレコードを使用する場合は、u-DIEX 上への登録は不要です。	B9999
5.	格納先フォルダ	振分け・変換後のデータの、格納先フォルダです。	/ 調達メールボックス /B9999
6.	格納ファイル名	振分け・変換後のデータを格納する際に設定するファイル名です。	帳票.pdf

その他の項目に関しては、別紙「u-DIEX データ振分け・変換機能詳細・レイアウト情報サンプルと記入項目」をご参照ください。

#### 変換機能を利用される場合

「4.1 利用開始までの流れ」をご参照ください。

### ⑤利用開始

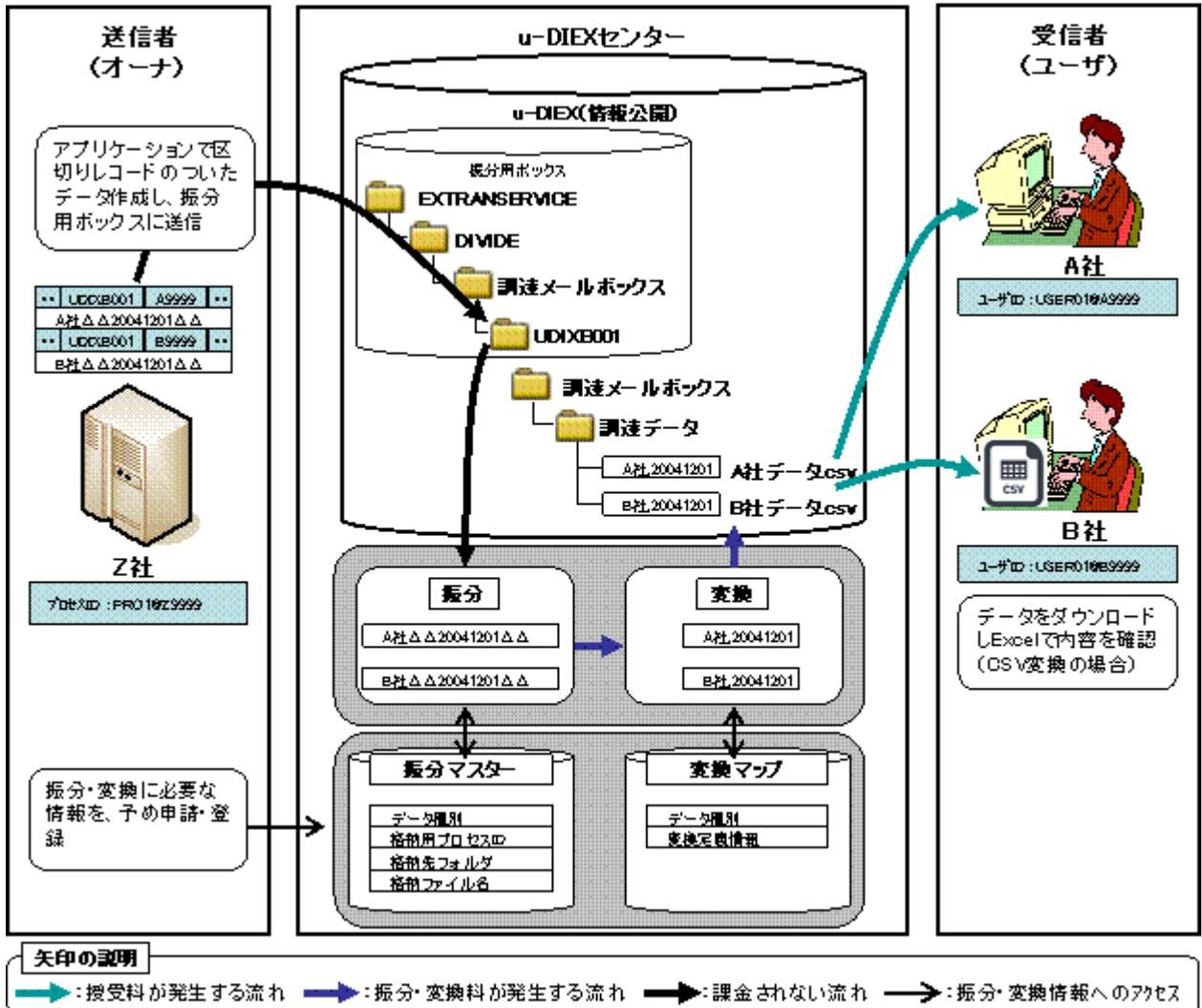
TNS データを作成いただき、u-DIEX(汎用)自由形式で振分け用ボックス(UDX0TR1)に送信してください。

#### 4.2.3.パターン 3

～ 「情報公開サービス」内で振分けする場合の利用準備 ～

u-DIEX(情報公開)加入同士の取引に、ご活用いただけるパターンです。オーナは一回の送信処理で、複数のユーザと一度に取引が行えるメリットがあります。

オーナは業務毎に区切りレコードの含まれるデータを作成し、u-DIEX(情報公開)の振分け用ボックス(/EXTRANSERVICE/DIVIDE/「サービス名」/「業務フォルダ」)に送信してください。振分け用ボックスに格納されたデータは、振分け・変換機能により取引先の会社ごとに分割・変換され、u-DIEX(情報公開)のフォルダに格納されます。ユーザはブラウザからデータをダウンロードし、Excel・AcrobatReader 等で内容を確認します。



### ①事前準備

- 1.オーナーは、u-DIEX(情報公開)を利用してデータ授受を行う為に、各サービスへ加入していただく必要があります。(既に加入済であれば必要ありません)
- 2.オーナーは、振分け・変換後のデータを格納するサービスを、用意していただく必要があります。
- 3.ユーザは、オーナーの提供するサービスに加入していただく必要があります。

### ②利用申請

#### 「u-DIEX(情報公開)振分け・変換機能利用申込書」の申請

連絡先、u-DIEX 送信用プロセス ID、格納先サービス名を申請書に記入いただき、申請していただきます。申請いただいた情報をもとに、TSにて登録が実施され、利用開始準備完了の連絡が行われます。

項目	説明	例
1. 連絡先	オーナーの連絡先です。TS から連絡させていただく際の、連絡窓口をご記入ください。	会社名、担当者名、住所 TEL、E-MAIL アドレス等
2. 送信用プロセス ID	振分け用ボックスは、格納先サービス/データ種別ごとに用意されます。この用意されたフォルダに送信する ID として使用します。振分け・変換後のデータを格納する際、データの作成者としても使用します。	PRO1@Z9999
3. 格納先サービス名	振分け・変換後のデータの、格納先(情報公開サービス)として使用します。	調達メールボックス

### ③データの準備

お客様にて、データ内に宛先を識別するレコード(区切りレコード)を作成していただきます。

### ④振分け・変換登録申請

#### 「振分け・変換詳細情報」の登録

データ種別、振分け先の ATSC 会社コード、格納先フォルダならびに格納ファイル名を、お客様にて記入していただきます。記入いただいた情報をセンタに登録します。この情報をもとに区切りレコードの宛先毎に、データを振分けて、相手先様へ格納いたします。

項目	説明	例
1. データ種別	振分け・変換の各種設定は、データの種類ごとに行います。データ種別は、そのデータの種別を識別するための情報です。	UDIXB001
2. ATSC 会社コード	振分け・変換後のデータを格納する際に設定するアクセス権情報です。区切りレコードを使用する場合は、u-DIEX 上への登録は不要です。	A9999 B9999
3. 格納先フォルダ	振分け・変換後のデータの、格納先フォルダです。	/調達メールボックス/調達データ
4. 格納ファイル名	振分け・変換後のデータを格納する際に設定するファイル名です。	A 社データ.csv B 社データ.csv

その他の項目に関しては、別紙「u-DIEX データ振分け・変換機能詳細・レイアウト情報サンプルと記入項目」をご参照ください。

#### 変換機能を利用される場合

「4.1 利用開始までの流れ」をご参照ください。

### ⑤利用開始

データを作成いただき、振分け用ボックス(/EXTRANSERVICE/DIVIDE/「サービス名」/「データ種別」)に送信してください。

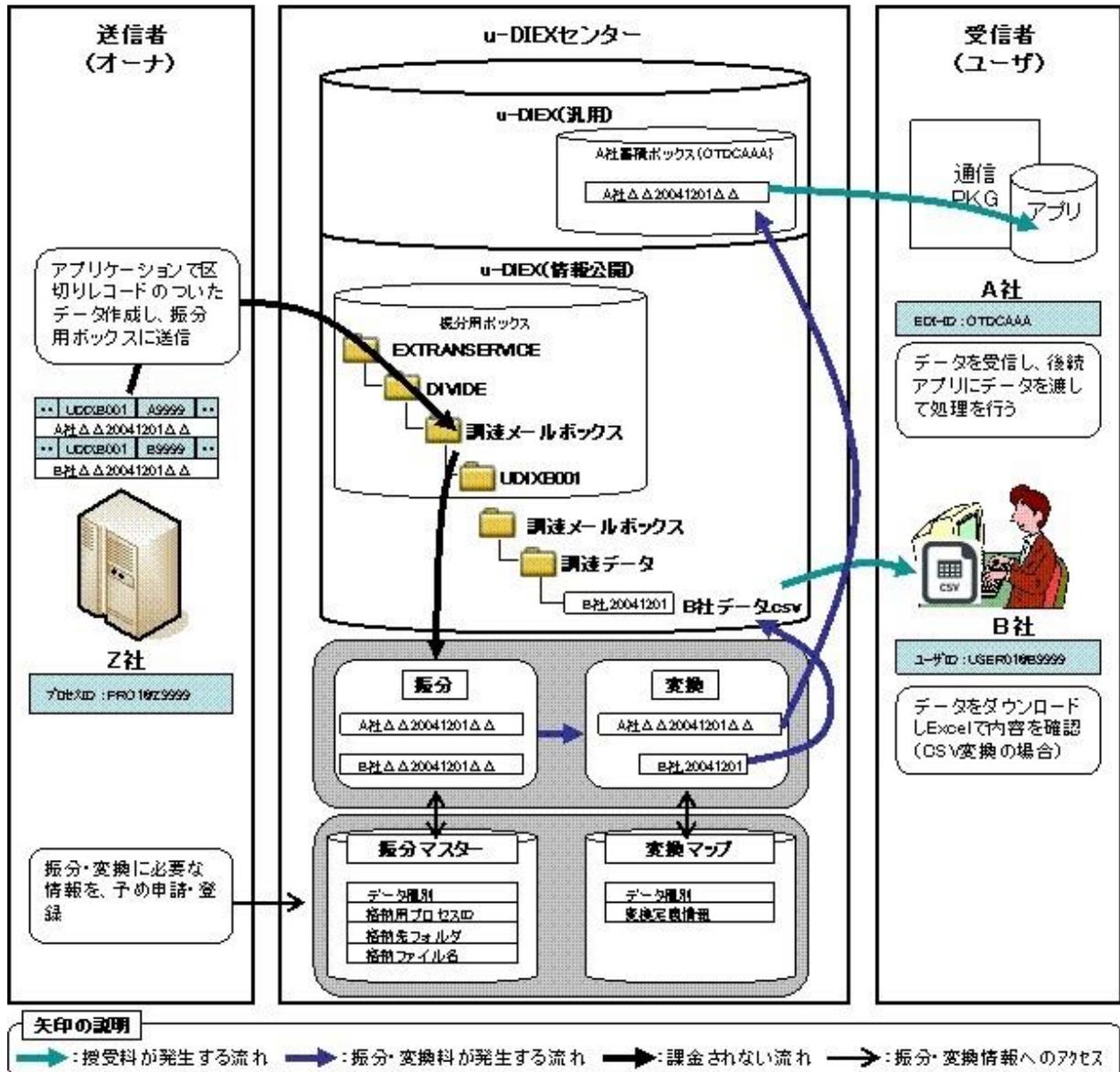
#### 4.2.4.パターン 4

～ 「u-DIEX(情報公開)サービス」から

「u-DIEX(汎用)サービス」と「u-DIEX(情報公開)サービス」へ振分けする場合 ～

既に u-DIEX(情報公開)に加入済みのオーナーが、u-DIEX(汎用)に加入済みのユーザと u-DIEX(情報公開)に加入済みのユーザ、同一データで一度に取引を行う際に、ご活用いただけるパターンです。これまでの業務スタイルは変えずに、u-DIEX(汎用)のユーザとも取引が行えるメリットがあります。

オーナーは業務毎に区切りレコードの含まれるデータを作成し、u-DIEX(情報公開)の振分け用ボックス(/EXTRANSERVICE/DIVIDE/「サービス名」/「業務フォルダ」)に送信してください。振分け用ボックスに格納されたデータは、振分け・変換機能により取引先の会社ごとに分割・変換され、u-DIEX(汎用)の蓄積ボックスと u-DIEX(情報公開)のフォルダに格納されます。ユーザは通信 PKG を使いデータを受信するか、ブラウザからデータをダウンロードし、Excel・AcrobatReader 等で内容を確認します。



### ①事前準備

1. オーナは、u-DIEX(汎用)を利用してデータ授受を行う為に、各サービスへ加入していただく必要があります。  
(既に加入済であれば必要ありません)
2. オーナは、振分け・変換後のデータを格納するサービスを、用意していただく必要があります。
3. ユーザは、オーナーの提供するサービスに加入していただく必要があります。

### ②利用申請

#### 「u-DIEX(汎用)振分け・変換機能利用申込書」の申請

連絡先、u-DIEX 送信用 EDI-ID、格納先サービス名ならびに格納用プロセス ID を申請書に記入いただき、申請していただきます。申請いただいた情報をもとに、TS にて登録が実施され、利用開始準備完了の連絡が行われます。

項目	説明	例
1. 連絡先	オーナーの連絡先です。TS から連絡させていただく際の、連絡窓口をご記入ください。	会社名、担当者名、住所 TEL、E-MAIL アドレス等
2. 送信用プロセス ID	振分け用ボックスは、格納先サービス/データ種別ごとに用意されます。この用意されたフォルダに送信する ID として使用します。振分	PRO1@Z9999

		け・変換後のデータを格納する際、データの作成者としても使用します。	
3.	格納先サービス名	振分け・変換後のデータの、格納先サービスです。	調達メールボックス

### ③データの準備

お客様にて、データ内に宛先を識別するレコード(区切りレコード)を作成していただきます。

### ④振分け・変換登録申請

#### 「振分け・変換詳細情報」の登録

メッセージ識別子をデータ種別として登録いただきます。次に、振分け先が u-DIEX(汎用)加入者の場合は取引先コードと EDI-ID を、振分け先が u-DIEX(情報公開)加入者の場合は取引先コードに紐づく ATSC 会社コード、格納先フォルダならびに格納ファイル名を、お客様にて記入していただきます。記入いただいた情報をセンタに登録します。この情報をもとに TNS ヘッダレコードの宛先毎に、データを振分けて、相手先様へ格納いたします。

項目	説明	例
1. データ種別	振分け・変換の各種設定は、データの種類ごとに行います。データ種別には、TNS のメッセージ識別子を登録いただきます。	ITNSZ01
振分け先が u-DIEX(汎用)加入者の場合		
2. 取引先コード	TNS の取引先コードを登録いただきます。EDI-ID との紐づけに使用します。	_A999 ※”_”はブランクの意
3. 拠点コード	TNS 拡張形式の場合、拠点コードを登録いただきます。EDI-ID との紐づけに使用します。	000
4. EDI-ID	振分け・変換後のデータの、格納先蓄積ボックスです。	OTDCAAA
振分け先が u-DIEX(情報公開)加入者の場合		
2. 取引先コード	TNS の取引先コードを登録いただきます。ATSC 会社コードとの紐づけに使用します。	_B999 ※”_”はブランクの意
3. 拠点コード	TNS 拡張形式の場合、拠点コードを登録いただきます。ATSC 会社コードとの紐づけに使用します。	000
4. ATSC 会社コード	振分け・変換後のデータを格納する際に設定するアクセス権情報です。	B9999
5. 格納先フォルダ	振分け・変換後のデータの、格納先フォルダです。	/ 調達メールボックス /B9999
6. 格納ファイル名	振分け・変換後のデータを格納する際に設定するファイル名です。	帳票.pdf

その他の項目に関しては、別紙「u-DIEX データ振分け・変換機能詳細・レイアウト情報サンプルと記入項目」をご参照ください。

#### 変換機能を利用される場合

「4.1 利用開始までの流れ」をご参照ください。

### ⑤利用開始

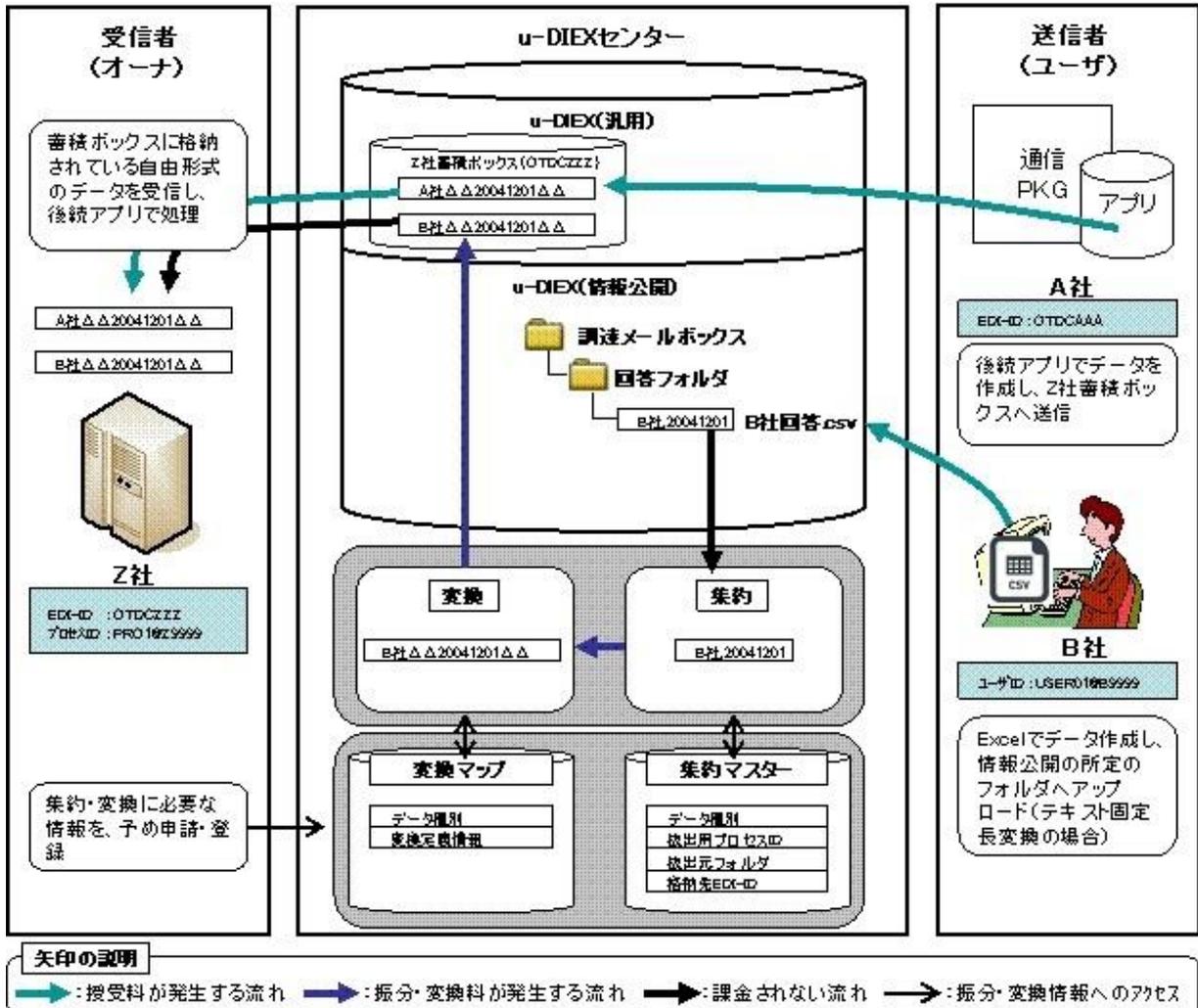
データを作成いただき、振分け用ボックス(/EXTRANSERVICE/DIVIDE/「サービス名」/「データ種別」)に送信してください。

## 4.2.5.パターン 5

～ 「u-DIEX(情報公開)サービス」から「u-DIEX(汎用)サービス」へ集約する場合 ～

既に u-DIEX(汎用)に加入済みのオーナーが、u-DIEX(汎用)に加入済みのユーザと u-DIEX(情報公開)に加入済みのユーザ、同一データで一度に取引を行う際に、ご活用いただけるパターンです。TNS の業務スタイルは変えずに、u-DIEX(情報公開)のユーザとも取引が行えるメリットがあります。

ユーザは業務毎にオーナー指定のデータを作成し、u-DIEX(情報公開)の所定のフォルダにブラウザからアップロードください。アップロードデータは、振分け・変換機能により集約・変換され、オーナーの u-DIEX(汎用)蓄積ボックスに格納されます。オーナーは他の u-DIEX(汎用)ユーザが送信したデータと一緒に受信します。



## ①事前準備

1. オーナーは、u-DIEX(汎用)とu-DIEX(情報公開)を利用してデータ授受を行う為に、各サービスへ加入していただく必要があります。(既に加入済であれば必要ありません)
2. オーナーは、u-DIEX(情報公開)のユーザが送信できるサービスを、用意していただく必要があります。
3. ユーザは、オーナーの提供するサービスに加入していただく必要があります。

## ②利用申請

## 「u-DIEX(汎用)振分け・変換機能利用申込書」の申請

連絡先、u-DIEX 受信用 EDI-ID、集約元サービス名ならびに集約用プロセス ID を申請書に記入いただき、申請していただきます。申請いただいた情報をもとに、TS にて登録が実施され、利用開始準備完了の連絡が行われます。

	項目	説明	例
1.	連絡先	オーナーの連絡先です。TS から連絡させていただく際の、連絡窓口をご記入ください。	会社名、担当者名、住所 TEL、E-MAIL アドレス等
2.	受信用 EDI-ID	集約後のデータは、オーナーの蓄積ボックスに EDI-ID:UDX0TS1 で格納します。 この UDX0TS1 との授受できるよう、パートナー登録を TS にて行います。	OTDCZZZ
3.	拔出元サービス名	集約・変換前のデータの、拔出元サービスとして使用します。	調達メールボックス
4.	拔出用プロセス ID	集約・変換前のデータを取り出す際、データの作成者として使用します。	PRO1@Z9999

### ③データの準備

ユーザに送信予定のデータを準備してもらってください。

### ④振分け・変換登録申請

データ種別、集約元フォルダを、お客様にて記入していただきます。記入いただいた情報をセンタに登録します。

	項目	説明	例
1.	データ種別	振分け・変換の各種設定は、データの種類ごとに行います。データ種別は、そのデータの種別を識別するための情報です。	UDIXB001
2.	集約先フォルダ	集約・変換前のデータの、取出元フォルダです。	/調達メールボックス/回答フォルダ

その他の項目に関しては、別紙「u-DIEX データ振分け・変換機能詳細・レイアウト情報サンプルと記入項目」をご参照ください。

#### 変換機能を利用される場合

「4.1 利用開始までの流れ」をご参照ください。

### ⑤利用開始

ユーザに設定完了の連絡をしていただき、所定のフォルダにデータを送信してもらってください。

### 4.3.申請/登録手順

振分け・変換機能利用申請書および振分け・変換機能詳細情報、レイアウト情報の登録手順を以下に説明します

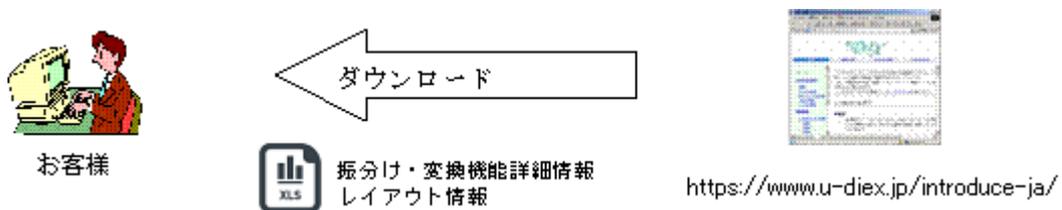
#### <振分け・変換機能利用申請書>

振分け・変換機能を利用する際に、申込書を記入(上記記入例を参照)して頂き、捺印済みの申請書をTSへ送付願います。申請書をもとに、TSにて登録作業が完了後、利用開始案内書を送付させていただきます。

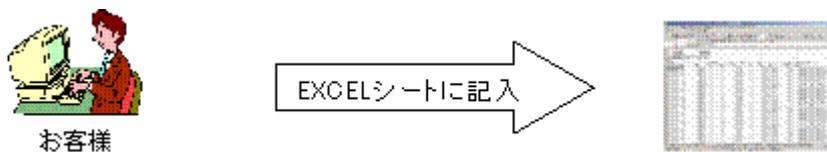
#### <振分け・変換機能詳細情報、レイアウト情報>

開始案内書が届きましたら、TSのWebサイトより振分け・変換機能詳細情報シート及び、レイアウト情報シートをダウンロードしてください。各シートは、EXCELファイルを使用しております。各シートに記入後、所定の手順に従ってファイルを保存して頂き、ブラウザ/通信部品/Huflt等を利用してu-DIEXへアップロードして頂きます。

手順1: 開始案内書が届きましたら、以下のWebサイトより「振分け・変換機能詳細情報シート」、「レイアウト情報シート」をダウンロードします。

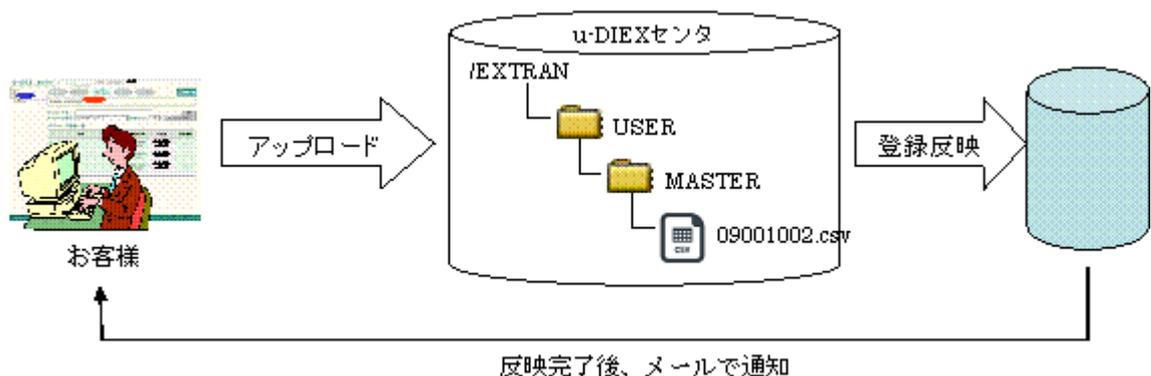


手順2: 各シートをダウンロードしましたら、「4.2.申請/登録情報」を参考にお客様にて記入願います。なお、各シートにはマクロを使用しておりますので、Excelのマクロを有効にしてください。



手順3: 記入が完了しましたら、シート上の保存ボタンを押してください。同一フォルダに登録用のcsvファイルが保存されます。

手順4: 手順3で作成したCSVファイルを、u-DIEX(汎用)サービスもしくはu-DIEX(情報公開)サービスの所定の場所にアップロードして下さい。アップロードされた情報は、毎日20時のバッチ処理により、登録されます。登録結果については、メールにてお客様に連絡されます。



### 4.4.申請/登録フロー

ご利用開始までのフローを、以下に説明します。

期間	お客様(オーナ)	TS	説明
		<p><b>振分け・変換機能利用申請</b></p>	<p>ここでは、振分け・変換を利用する為の基本情報を申請して頂きます</p> <p>&lt;必要申請書&gt; <b>振分け・変換機能利用申請</b></p>
3 営業日		<p>振分け・変換機能詳細情報 レイアウト情報 フォーマット情報</p>	<p>TSにて、申請書をもとに契約番号の登録、利用IDの登録、パートナー登録を実施致します。</p> <p>登録完了しますと開始案内書が送付されますので、以下の書類をダウンロードしてください。</p> <p><b>振分け・変換機能詳細情報</b> <b>レイアウト情報</b> <b>フォーマット情報</b></p> <p><b>注意)レイアウト・フォーマット情報に関してはお客様の扱うデータ種によって、必要ない場合がございます。</b></p>
5 営業日 ※2 参照			<p>振分け・変換機能詳細情報シート、フォーマット情報シート、レイアウト情報シートの記入をお願い致します。</p> <p>以下のお客様に関しては、下記のシートは不要になります。 <b>区切り形式のデータ種を扱うお客様</b> 『レイアウト情報』は不要です</p> <p><b>データの変換を行なうお客様</b> 『フォーマット情報』の登録依頼が必要です。その際にサンプルデータの提示をお願いします。</p> <p>※1 アップロード先 u-DIEXのEXTRANサービス配下にアップロードして頂きます。 &lt;アップロード対象ファイル&gt; <b>振分け・変換機能詳細情報</b> <b>レイアウト情報</b></p>

※2 1回の登録で詳細情報シートの件数が 200 件以上の場合及び変換機能を利用する場合は5営業日以上かかる場合がございます。期間に関しては弊社営業又はSEにご確認ください。

## 5. 補足

### 5.1.文字コードについて

この章では、文字の種類と文字コードの種類、またその関係について説明します。

#### 5.1.1.文字の種類

文字は、JIS ローマ字、JIS カナ、JIS 漢字、JIS 補助漢字の 4 種類に分類され、JIS 規格によって決められています。この他に、制御コードと呼ばれるデータがあり、文字と同様に扱っています。

文字の種類	説明
JIS X0211	JIS 制御コード
JIS X0201	JIS ローマ字 (ASCII)
JIS X0201	JIS カナ(半角カナ)
JIS X0208	JIS 漢字
JIS X0212	JIS 補助漢字

データ振分け・変換機能では、1990 年度版 JIS 規格に対応しておりますが、JIS 制御コードは変換対象としていませんので、予めご了承ください。

#### 5.1.2.文字コードの種類

データ振分け・変換機能で取り扱う文字コードについて、説明します。

##### ○JIS コード

JIS コードでは、以下のエスケープシーケンスにより、文字の種類を決めます。

エスケープシーケンス	1 バイト目	2 バイト目	文字の種類	
		00-1F,7F	制御コード	
1B 28 42	ESC ( B	20-7E	ASCII	
1B 28 4A	ESC ( J	20-7E	JIS ローマ字	
1B 28 49	ESC ( I	21-5F	JIS カナ(半角カナ)	
1B 24 40	ESC \$ @	21-7E	21-7E	旧 JIS 漢字 (1978)
1B 24 42	ESC \$ B	21-7E	21-7E	新 JIS 漢字 (1983/1990)
1B 24 44	ESC \$ D	21-7E	21-7E	JIS 補助漢字

JIS 漢字には、1978 年制定の旧 JIS と、1983 年/1990 年制定の新 JIS があります。

##### ○シフト JIS コード

シフト JIS コードは、SJIS とも呼び、Microsoft 社が決めたコードです。シフト JIS コードでは、JIS 補助漢字は表現できません。SJIS コードでは、エスケープシーケンスを使用しません。また、SJIS コードでは半角カナを 1 バイトで扱えるため、表示桁数と内部バイト数が一致するという特徴があります。

1 バイト目	2 バイト目	文字の種類
00-1F,7F		制御コード
20-7E		JIS ローマ字 (ASCII)
A1-DF		JIS カナ(半角カナ)
81-9F	40-7E	JIS 漢字
E0-EF	80-FC	

## ○EUC コード

Extended Unix Code の略で、日本語 UNIX で使われているコードです。EUC コードでは、エスケープシーケンスを使用せず、ASCII 以外の文字は、JIS コードの上位ビットを立てることにより識別しています。シフト JIS と異なり、JIS カナ(半角カナ)は、表示桁数は 1 桁ですが、内部のバイト数は 2 バイトとなります。JIS 補助漢字の場合は、内部のバイト数は 3 バイトになります。

1 バイト目	2 バイト目	3 バイト目	文字の種類
00-1F,7F			制御コード
20-7E			JIS ローマ字 (ASCII)
8E	A1-DF		JIS カナ (半角カナ)
A1-FE	A1-FE		JIS 漢字
8F	A1-FE	A1-FE	JIS 補助漢字

## ○IBM\_EBCDIC (IBM\_EBCDIK) コード

Extended Binary Coded Decimal Interchange Code の略で、IBM のメインフレームで使われている 8bit の文字コード体系です。

1 バイト目	文字の種類
00-3F,FF	制御コード
40-FE	JIS ローマ字 (ASCII)

## ○IBM 漢字コード

IBM 漢字コードは、IBM のメインフレームで使われている 2 バイトの文字コード体系です。1 バイトの IBM\_EBCDIC コードと組み合わせて使用され、文字コードの切替は、Shift-in/Shift-out(SI/SO)コードにより識別されます。

1 バイト目	2 バイト目	文字の種類
41-55	41-FE	JIS 漢字
56-68	41-FE	JIS 補助漢字

## 5.2.PDF 変換について

この章では、PDF 変換における変換仕様について、説明します。

### ○用紙サイズ

PDF ファイルの用紙サイズは、以下から選択いただけます。

用紙	サイズ	用紙	サイズ
A3	297×420 mm	B5	182×257 mm
A4	210×297 mm	ハガキ	100×148 mm
A5	148×210 mm	10×11 インチシート	10×11 インチ
レター	8.5×11 インチ	11×17 インチシート	11×17 インチ
リーガル	8.5×14 インチ	15×11 インチシート	15×11 インチ
B4	257×364 mm	12×8.5 インチシート	12×8.5 インチ

また、用紙サイズを定義いただくことも可能です。縦サイズ、横サイズを mm 単位で指定してください。

縦サイズ: 最小 35mm～最大 431.8mm

横サイズ: 最小 35mm～最大 431.8mm

なお、印字可能範囲は用紙端から、5mm 幅になります。

### ○ページ番号

PDF ファイルが複数ページになる場合、ページ番号の表示が可能です。

表示形式	"n"、"n ページ"、"-n-"、"n/m" (m は全ページ数です)
最大ページ数	1 ファイルあたり 10 ページ以内

### ○文字フォント

MSゴシックとMS明朝から選択いただけます。太字・斜体・太字斜体の修飾が可能です。

### ○文字配置

文字の出力位置を決めたら、決めた位置内で文字配置が可能です。

縦方向	上寄せ、下寄せ、中央、均等
横方向	左寄せ、右寄せ、中央、均等

### ○文字付加

出力文字の前後に、固定文字の付加が可能です。

### ○数値修飾

3 桁ごとに","(カンマ)の付加が可能です。また、先頭の桁埋め"0"(ゼロ)の削除も可能です。

### ○日付修飾

年月日の境目に"/"(スラッシュ)の付加が可能です。また、年月日や和暦への変換も可能です。

### ○図形表示

四角形・各丸四角形・楕円の表示、および網掛け設定が可能です。図形と文字を重ねて表示することも可能です。

### ○図形の線種

図形や罫線の修飾が可能です。

線の太さ	0.1pt～10.0pt
線種	実線、点線( — — — , - - - - , — · — , — · · — )

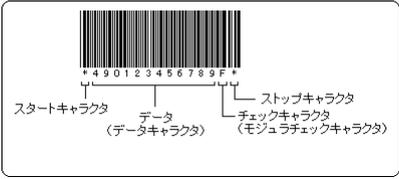
## ○画像表示

PDF ファイル上にロゴ等の画像表示が可能です。表示する画像ファイルの制約は以下の通りです。

画像フォーマット	JPEG または GIF
画像個数	1 ファイルあたり 3 ファイル以内
画像サイズ	1 ファイルあたり 100KB 以内

## ○バーコード表示

表示可能なバーコードの種類は、CODE39 と QR コードです。PDF ファイルにバーコードを出力しますので、バーコードの読み取り可否確認を、変換テスト時にお客様にて実施いただきます。また、1 ページに表示可能なバーコードは 3 件までです。

CODE39 (JIS X 0503)	
QR コード (JIS X 0510)	

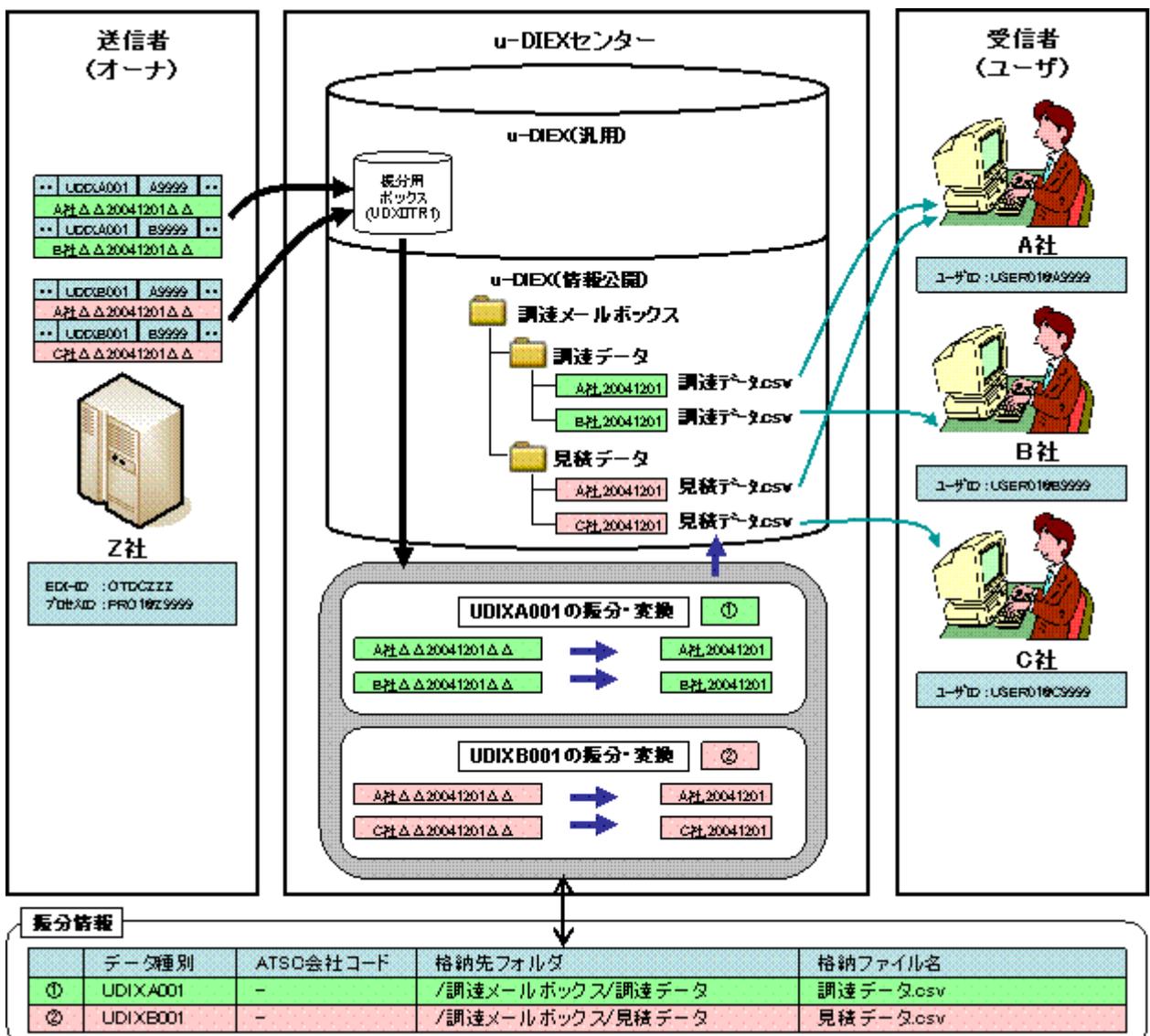
### 5.3.u-DIEX(情報公開)におけるフォルダ構造のパターン

データ振分け・変換機能では、u-DIEX(情報公開)サービスの基本的なフォルダ構造として、データ種別毎にフォルダを用意するパターンと、相手先の会社コード毎にフォルダを用意するパターンを想定しています。各パターンにおける振分け情報の設定方法について、説明します。

#### 5.3.1.データ種別毎にフォルダを用意する場合

以下の例では、2つのデータ種別のデータ(UDIXA001、UDIXB001)の振分け・変換を行っています。データ種別毎に格納先が同じであるので、区切りレコードを使用し格納ファイル名も各社同じ場合は、振分け情報への設定もデータ種別の数だけになります。

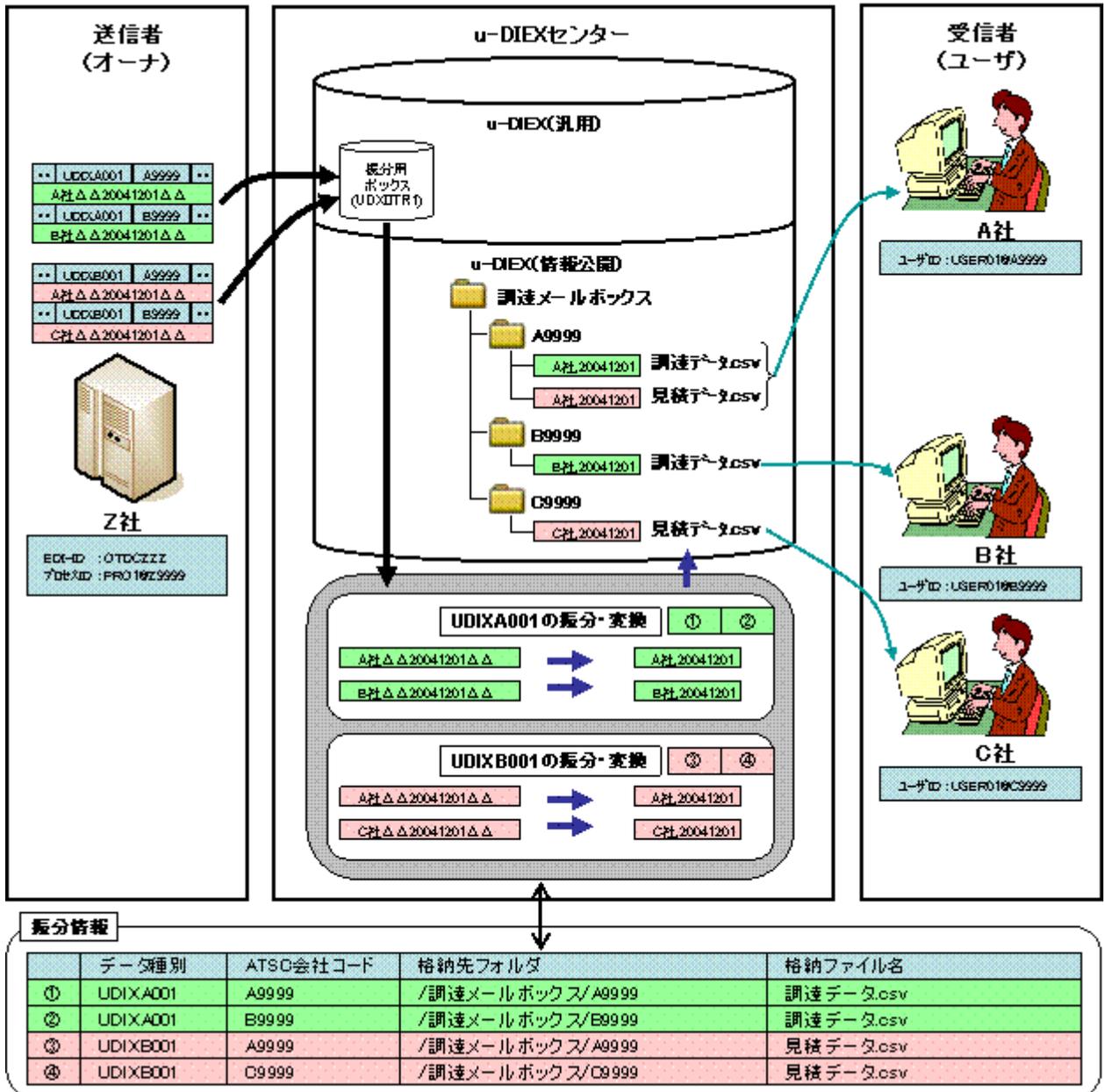
このフォルダ構造では、オーナはデータ種別数分だけフォルダを作成し振分け情報の登録を行えばよいので、登録運用が楽といったメリットがある反面、ユーザはデータ種別毎にフォルダを見ないといけないデメリットがあります。但し、検索・What's Newなどのu-DIEX(情報公開)の便利機能を活用いただくことで、ユーザの負担軽減が可能です。



### 5.3.2.会社コード毎にフォルダを用意する場合

以下の例では、2つのデータ種別のデータ(UDIXA001、UDIXB001)の振分け・変換を行っています。受信者の会社ごとに格納先が異なるので、振分け情報への設定は振分け後のファイル数分実施いただきます。

このフォルダ構造では、ユーザは自分の会社のフォルダのみ見ればよいといったメリットがある反面、オーナーはユーザの会社数分だけフォルダを作成し、振分け情報を登録しなければならないデメリットがあります。



## 5.4.用語説明

用語	説明
オーナー	データ振分け・変換機能の契約者であり、取引先との業務取り纏め元。
ユーザ	オーナーと業務取引のある利用者。
区切りレコード	振分けるデータ中に設定された、振分け先を識別するための情報レコード。 レコード形式は ASCII と EBCDIC の 2 種類在り、お客様にてデータ中に設定していただきます。
区切り形式	振分け対象データの形式の一つ。 区切りレコードが設定されたデータを指す。
フリー形式	振分け対象データの形式の一つ。 お客様オリジナルレイアウトの固定長テキストデータを指す。
TNS 形式	振分け対象データの形式の一つ。 TNS 標準形式・TNS 拡張形式(固定長)のデータを指す。 TNS 形式のデータは、u-DIEX(汎用)サービスでのみ利用可能。
マルチファイル	TNS 形式のデータにおいて、複数の宛先に送信するデータが、1 つの物理的に結合された状態のファイル。
取引先コード	u-DIEX(汎用)サービスにおいて、クライアントの会社を識別するために付加される ID。
拠点コード	u-DIEX(汎用)サービスにおいて、クライアントの会社内部署を識別するために付加される ID。
EDI-ID	u-DIEX(汎用)サービスにおいて、クライアントの端末を識別するために付加される ID。取引先コード+拠点コードと EDI-ID は、1 対 1 の関係。
会社コード	u-DIEX(情報公開)サービスにおいて、クライアントの会社を識別するために付加される ID。
ユーザ ID	u-DIEX(情報公開)サービスにおいて、クライアントの個人を識別するために付加される ID。
プロセス ID	u-DIEX(情報公開)サービスにおいて、クライアントの端末を識別するために付加される ID。
ATSC	All Toyota Security Center の略。 u-DIEX(情報公開)サービスにおいて、ユーザを認証するために使用される、個人認証機関名。
ATSC 会社コード	ATSC に登録されている、会社を識別するために付加される ID。 u-DIEX(情報公開)サービスの会社コードと同じ値。
ATSC ユーザ ID	ATSC に登録されている、ユーザを識別するために付加される ID。 u-DIEX(情報公開)サービスのユーザ ID と同じ値。
データ種別	u-DIEX(情報公開)サービスにおいて、データの種別を識別するために付加される ID。
メッセージ識別子	u-DIEX(汎用)サービスにおいて、データの種別を識別するために付加される ID。
蓄積ボックス	u-DIEX(汎用)サービスにおいて、取引先から送信されたデータを一旦 u-DIEX 上に蓄積するための領域であり、EDI-ID 毎に用意される。
通信 PKG	u-DIEX(汎用)サービスにおいて、データを授受するために使用するクライアントソフトウェア。
通信部品	u-DIEX(情報公開)サービスにおいて、データを授受するために使用するクライアントソフトウェア。
Hulft	u-DIEX(汎用)サービス・u-DIEX(情報公開)サービスにおいて、データを授受するために使用するクライアントソフトウェア。